

やまびこ

第113号

平成28年 9月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「イチローから学ぶこと」



理事長 落 司 量 則

日米の野球界で偉大な記録を更新し続けるイチロー。すごい選手とつくづく思う。

日本ではシーズン二〇〇本安打を初めて達成、大リーグに行つてからも十年連続二〇〇本以上のヒットを打ち、二〇〇四年にはシーズン二六二本安打で大リーグ記録を更新、そしてついに大リーグ通算三〇〇〇本安打も達成し今なお最年長の四二才で現役続行中である。

彼は三才ぐらいから野球の練習を始め、小学校三年からは一流のプロ野球選手をめざして一年三六〇日は激しい練習をしたと語っている。彼を天才と呼ぶ人があるが、彼自身は自分は天才ではなく血の滲むような練習を繰り返してきたから今の自分があると云っている。大リーグの中継を見ていると、イチローが打席に入るまでのルーティーンがすごい。ベンチに座ってい

る時から、ヒットという結果を出すために体を最高の状態にするべく準備をしている。それはずっと変わらない。日々練習を続け地味で目立たない作業の積み重ねによつてしか偉大な成果は生まれない。毎日の練習はいいときの状態を忘れないためにやるとも云う。

「継続は力なり」である。習慣は三週間続ければ根づくという。だから初めはいやでも毎日同じ時間に同じことをやるくせをつければよい。二〇〇四年に大リーグシーズン最多安打記録を破ったとき「結局は細かいことを積み重ねることしか頂上にはいけない。それ以外に方法はないということですね」と云っているがやはり地道な努力は大事であると思う。

日米通算安打を更新した時には「甲子園に行ける訳がないとかプロ野球選手になれる訳がないとか常に人に笑われる悔しい歴史が自分の中にあるのでこれからもそれをクリアしたいという思いがある。できなくてしょうがないのは終わってから思うことであつて途中でそれを思つたら絶対に達成できない」と述べている。

イチローの談話はイチロー独得の言い回しで分かりにくいところがあるが、あれだけの結果を出し続けている名選手だからこそ言えることだと思う。

これからもイチローを注目し節目節目で発する彼の言葉を楽しみにしたい。

目次

巻頭言……………	理事長 落 司 量 則	
一八歳選挙権……………	理 事 南 智 1	
ガリレイ……………	〃 岡 征 二 郎 2	
夢……………	高校一年 武 田 宗 真 3	
夏休みの思い出……………	〃 日 下 侑 希 4	
この四か月を振り返って……………	〃 井 上 唯 5	
高校一年生の夏……………	〃 安井 絵 里 果 6	
高校生になって……………	〃 高 橋 大 地 7	
津山高専に入学して……………	〃 佐 藤 海 斗 8	
高校生活……………	〃 濱 田 祐 佳 里 9	
ハーゲンダッツをかけて……………	〃 久 保 田 実 歩 9	
近況報告……………	〃 井 上 彪 馬 11	
自分の将来……………	〃 津 本 宥 海 12	
インターハイを終えて……………	〃 小 林 桜 子 13	
部活動……………	〃 片 山 歩 14	
近況報告……………	〃 植 木 龍 翔 15	
高校と人間関係……………	〃 栗 山 裕 唯 16	
二年と半年後の夢……………	〃 上 原 志 保 16	
インターハイの補助員……………	〃 笠 富 花 17	
高校生になって……………	〃 四 野 見 祥 子 18	
二年生になって……………	〃 植 本 圭 祐 19	
やりたいことをやる……………	〃 小 竹 守 花 恵 19	
近況報告……………	〃 産 本 龍 20	
地元が好き……………	〃 佐 伯 吏 咲 子 21	
出会いを大切に……………	〃 杉 岡 大 輝 22	
高校二年生になって……………	〃 小 西 菖 22	
人生とは……………	〃 青 山 公 士 23	
読書感想文らしきもの……………	〃 三 宅 竜 矢 24	
時間……………	高校三年 小 林 陽 一 郎 25	
良かったこと……………	〃 戸 田 花 26	
高校三年間の振り返り……………	〃 熊 谷 舞 佳 27	
部活引退……………	〃 栗 山 恵 輔 28	
今後の目標……………	〃 榎 原 勝 也 29	
貴重な経験・パート二……………	〃 井 上 真 実 29	
ブレない生き方を目指して……………	〃 守 時 優 里 30	
ラグビーで学んだこと、夢の花園へ……………	〃 名 田 怜 央 32	
「ありがと」を読んで……………	〃 吉 川 朋 之 33	
岡大学習会にて……………	〃 藤 原 淳 美 34	
大学生になって……………	〃 蘆 原 薫 35	
夏期研修会日記……………		
夏期研修会日程表……………		
夏期研修会感想文……………		
編集後記『東京一極集中について』……………	湯 浅 日 出 雄 62	

一八歳選挙権	理事 南 智
--------	--------

今年七月の参議院議員選挙から選挙権年齢が一八歳以上に引き下げられた。アメリカ・イギリス・フランス・ドイツなど先進国はもちろんのこと、世界的には一八歳からの選挙権が標準的となっており、今までの日本は例外的だったといえる。国立国会図書館デジタルによると、一九九か国の議会の選挙権年齢を調査したところ、約九割の一七六の国が選挙権を一八歳までに認めている。

世界の標準に合わせようというのがひとつの理由であったが、若い世代が政治に関心を持つきっかけになればという期待もある。また、少子高齢化が進み、シルバー民主主義という言葉さえ使われるようになっていく現状もあり、世代間のバランスをとる必要もあったといえる。一八歳で高校を卒業する人が多く、人生の一つの節目であることも間違いない。

私は若い人たちの政治への参加に関心があり、その具体的表れである七月の参院選での投票率を確かめてみた。総務省の発表によると、一八歳は五一・一七％、一九歳は

三九・六六％であり、合わせた投票率は四五・四五％だった。全体の投票率は五四・七％なので、一八歳、一九歳の投票率は全体に比べ低かったといえる。でも、総務省の抽出調査によると二〇歳代よりは高かったという。一九九〇年代から、二〇歳代の投票率は二〇～三〇％台に止まる傾向が続いているとの分析もあり、若い人がもっと参政権を行使してほしいと思っている。

今回の参院選で一八歳より一九歳の投票率が低かった理由として、一八歳は高校などで主権者教育を受ける機会が多く、一九歳は、進学などで親元を離れても住民票を移さず投票に行かない人がいることなどが指摘されている。

高校生である皆さんは、選挙や政治の仕組みといった知識にとどまらず、社会人として自立し、他者と連携しながら社会を生き抜く力や、さまざまな課題を解決する力を身につけてほしい。

日本の選挙権は、一八八九年に衆議院議員選挙法が公布され、一定の財産を持つ二五歳以上の男子に選挙権が与えられたことに始まる。そして一九二五年に男子全員に、さらに戦後一九四五年に二〇歳以上の男女と定められたのである。これには、自由民権運動、普通選挙運動、婦人参政権運動等が展開されたことにより参政権が拡大されてきた過程があり、近現代史学習のテーマのひとつである。

(元ノートルダム清心女子大学教授)

ガリレイ

理事 岡 征二郎

ガリレイと言う歴史上の人物の名前を聞いたことのある人は多いと思う。

一六世紀から一七世紀に掛けてイタリアの物理学者として、天文学者としてさらには哲学者として活躍し大学教授としても業績を残した人である。各種のこの業績も、当時の世相を反映している。

(1) 中世ヨーロッパの世相

中世ヨーロッパの生活には科学的刺激と言うものが欠けていたといわれている。中世は信仰の時代であったから、科学的な思索には不利であった。科学者と言うことで弾圧されたわけではない。当時の人々は、信仰そのものに熱中することで精一杯であった。そのため、科学に専念する余裕など無かったのである。もともと科学探求の目指すところは、宇宙とその起源、その営みに就いて統一された理論

を一步一步作り上げていくことである。中世の宗教的教条（ドグマ）が確立していた時代には、知的な対象や科学の方法は、少なくとも余計なものであった。そのため、中世全体としては、技術上の改良は非常にまれで、のろいものであった。と言うのも、中世の経済政策が技術上の改良を非常に困難にするものであったと共に、保護貿易主義が根強く、地方的な取引では、技術方式が秘密扱いにされていた。

(2) 二つの世界観

当時の人々は、地球が宇宙の中心にあつて静止しており、その周りをたくさん天体が規則正しく回っているものと考えていた（プトレマイオスによる天動説）。この考え方は十五世紀頃までの長い間支持されていたが、宇宙を同心円で描くと、ひとつの天球を説明するのにひとつの球を使用すると八〇以上の球が必要であり、それでもまだすべての天球の動きを説明できない状況もあったのである。これを解決するため、コペルニクスは、長い間信用を失っていた「地球が動く」と言う考えに立ち戻り、いくつかの運動の球を取り除けば、残りのものをもっと簡単な体系で説明できるのではないかと考えた。コペルニクスは二〇年もの長い時間をかけて、新しい宇宙を案出しようと努力した。そしてひとつの体系を完成させた。これを使うとプトレマ

イオスの体系で説明できなかったことを三四球でやり遂げた。（詳細は別著「地球の回転について」。当時は「地球が静止していることはあまりにも明白なことであった」から、その反対を主張することは笑いぐさの対象にもなりかねないと判断し、身近な人にだけ、自分の考えを打ち明けていた。コペルニクスの死後、一世経経って、彼の著作は歴史的空前の激しい知的論争の中心となったのである。これは、彼の著作が、中世の思想体系の急所に触れ、それに致命的な打撃を与えたからである。

(3) ガリレイと地動説

一六〇九年にオランダのハンス・リッペルシエイによって遠方のものを拡大してみせる《とおめがね》（今の望遠鏡のこと）が発明された。

イタリアの天文学者、物理学者、哲学者であるガリレイは、組み合わせレンズの光学的性質を研究し、自作の四〇倍の望遠鏡を木星に向け、イオ、エウロパ、ガニメデ、スリストと証する四つの衛星を発見した。この四つの衛星は木星の周りを回っていると考えた。これと同様に宇宙においても太陽の周りを惑星が回っているに違いはないと考え、地動説を説明する証拠とした。

科学者が一つの考え方をまとめるには、相当の長い時間

を掛けての思考と調査、観察と測定、他の協力者の要請等数多くの困難を克服しなければならない。

科学と言うものは、あることを言う場合に、それが本当か、本当でないかを言う学問である。科学で本当であると言うのは、いろいろな人が同じことを調べてみて、それがいつでも同じ結果になる場合にはそれを本当と言うのである。

参考文献 科学の歴史(上)(下)

メイスン著 矢島祐利訳 岩波書店

近代科学の歩み

H・バターフィールド・W・Lブラック著

菅井準一訳 岩波新書

科学の方法 中谷宇吉郎著 岩波書店

(元旭川荘療育センター児童院顧問)

夢

岡山朝日高校一年 武田 宗 真

僕は人間である。夢はまだない。夏目漱石の「吾輩は猫

である」の冒頭を真似しました。

冗談は置いておいて、僕には夢があります。どっちなんだと思われるかもしれませんが、どちらともです。ではなぜどちらともか、理由を書いていきます。

八正会への入会の時、僕の夢は数学者か医者になることでした。その理由は僕は数学が好きだからそれを研究するのは自分が楽しいからいいだろうというものと、金が稼げるし、かついいからなりたいたいというものでした。この二つの理由に共通していることは、自分のことだけを考えている点です。確かに理由の一つとしてはありかもしれませんが、大部分がこれはマズいだろうと、自分の夢が肯定できなくなりました。これが夢がない理由です。次は夢がある理由ですが、これには夏休み体験したことと一緒に書いていきます。僕は高校生になつてはじめて入院込みの手術を体験しました。僕は元々耳が悪く、いよいよ大きな手術をすることになりました。僕の担当の先生はとても優しく、他に働いている先生方も、患者のために働いていました。大げさかもしれませんが、僕にはそうみえました。この手術が終わり、僕も人のために何かしたいなと思い、考えました。どうせ人のために何かするなら、直接人を助ける医者になりたいと思います。これが夢がある理由です。結局僕は、医者になるか数学者になるかしたいです。そ

顔の方に心動かされた。高校生活が始まって早四ヶ月。その間に、何か達成感を覚えるものに果たして出会っていただろうか。そして、私はそのような輝かしい顔を見て、自分の夢を忘れかけていることにも気づかされた。

私は、このスピーチコンテストを通して、中学生から学ばせてもらったことが二つある。一つ目は、何もない虚な状態で日々を過ごしていたことである。前述した通り、私は自分の夢を忘れかけていた。つまり、目的もなく、ただやれと言われて勉強などをこなしているロボットのようなものになっていたのである。二つ目は、自分が中学生より劣っていることである。私は、スピーチコンテスト以前、「夏休みなのに、わざわざ学校へ行って、中学生のスピーチを聞かなければいけないんだ。」と思っていた。しかし、フタを開けてみると、文章構成がしっかりと整い、また話し手にうまく伝わるよう声の大きさなどを工夫して発表している中学生が二十七人いた。ふと、我が身を振り返ってみると、このような発表をしろと言われてもできない自分がいて、情けなく感じられた。

私が、今からできることがあるとするならば、自分の夢という目的を持って、虚な状態から抜け出し、何でもいので達成感を覚えられるものを、見つけることであろう。この後の報告は、次のやまびこでしたいと思う。

のために、もっと勉学に励み、よい高校生活を送りたいと思います。

僕は人間である。夢は見つけた。

夏休みの思い出

倉敷高校一年 日 下 侑 希

私の学校で先日、「『夢がたり』スピーチコンテスト」なる行事があった。この行事は、倉敷市立の中学校二十六校、早島町立の学校一校の代表者が自分達の夢、目標を語り、競い合うものだ。

ウォルト・ディズニー氏の「If you can do it, you can do it」という言葉に感銘を受け、この言葉を励みに夢に向かってがんばっていききたいというスピーチ。「僕らのヒーローアカデミア」という作品の主人公のように、努力を怠らないようにしたいというスピーチ。さまざまなスピーチがあった。

しかし、私はそのようなスピーチよりも、一人一人が壇上から自分の席に返ってくるときの達成感に満ちあふれた

この四か月を振り返って

倉敷青陵高校一年 井 上 唯

高校に入学して、四か月がたった。この四か月は、中学生の時とは比べものにならないくらい濃いもので、あつという間に過ぎていったように感じる。でも、その中で私は素敵な先生と仲間に出まれ、とても充実した日々を送っている。

まずは勉強面について。毎日の予習と復習をする習慣は、だいぶ身につけてきたのではないかと思う。しかし、入学当初と比べ、予習復習をするのがおろそかになっているような気がする。つまり、勉強の質が落ちてきているということ。なぜなら、勉強時間をいろんな誘惑にとられてだらだらしているから。やはり、勉強の質を上げるためにはそれなりの勉強時間も必要だと思う。だから、私が今一番に感じていることは、勉強時間をもう少し確保していきたいということだ。具体的に改善方法を私なりに考えてみた結果、一つ目は、毎日の勉強時間の計画を立てること。そうすることで、勉強する時間と勉強をしない時間のめりはりができ、ただだらと過ごす時間も減ると思う。二つ目は、

時間は自分で作るものだから、自分が勉強したくない朝の時間や学校から帰宅後すぐなどに勉強する時間を作るということ。そうすることで、時間が確保できるだけではなくて、自信につながり勉強に余裕も出てくると思う。一度に全部はできないかもしれないが、少しずつでも自分のものにしていきたい。

次に部活動について。私は書道部に入部した。今は仮名をしている。仮名をするときは少し青っぽい墨や紫の墨を使う。その墨を使うことで、文字に濃淡が出てくるので、書いていてその変化を上手く表現できたときはとてもうれしい。また、この夏休みには、二泊三日で合宿もあった。青陵祭でする書道パフォーマンスの練習や個人練習を通して、書道スキルを高めることができ、とてもよい機会となった。そして、青陵祭を成功させるためにもまだまだ練習をがんばっていききたい。

高校一年生の夏

岡山芳泉高校一年 安 井 絵里果

高校に入学してもう四ヶ月。四ヶ月前は勉強や部活、ボランティア活動「すべてのことに全力で取り組む」ということを目標にかかげて、キラキラとした高校生活を夢に描いていました。しかし、実際に高校生活が始まると、勉強は難しくなるし、テストばかりで部活動に集中できないで、描いていた高校生活は実現できていません。

「挽回できるのはこの夏しかありません。」夏期休業前に多くの先生方から聞いた言葉です。この言葉を聞いて、このままだったらにしても何も始まらないと思い、この夏でみんなを抜かしてやろう！と決心しました。でも一体何から始めれば良いのか分からず、部活と勉強の両立のできている友人に聞いてまわりました。そんな友人達の共通点は、計画を細かく立てる、という点でした。何時に〇〇を始めて何時に終わる、人によつては分単位で予定を立てている子もいました。よし、これしかないと思い、すぐに夏休みの毎日の予定を立てました。

実践している今は、とても生活にメリハリがついて充実

した日々を送ることができています。ですが、暇な時間ができるというスマートフォンをいじってしまうので、その時間を読書などの時間にあてらればなと思っています。そして部活（サッカー）ではリフティング三十回、勉強では学年三十位以内という新たな目標の達成に向けて頑張っています。そして、残り半分ほどとなった夏休みを無駄なく過ごし、三年後や五年後、十年後に「高校一年生の夏があったから、今があるんだ」と思えるようなそんな時間にできたらなと思います。

高校生になって

岡山一宮高校一年 高 橋 大地

高校に入学して約四ヶ月がたつてだいぶ学校にも慣れてきました。僕のクラスには同じ中学校の人もなくして全然知らない人ばかりでしたが今は友達もたくさんでき、充実した学校生活を送っています。

高校に入ってから新しいことに挑戦したいと思い中学までずっと野球をしてましたがある友達と一緒にバドミン

トン部に入部しました。僕は初心者だったので入部してからの約二ヶ月間は羽根は打たせてもらえず走って筋トレをして素振りの毎日でしたがそれを何とか乗りきって初めて体育館に入れてもらって先輩方の練習を見たときとてもかっこよくて自分も早く同じ場所に立ちたいと思いました。それからは毎日の部活はもちろん全力でがんばり一緒に入部した友達と早起きをして学校に行く前に一時間くらい部活が終わってからもう一つと練習をがんばりました。でもまだまだ僕は下手なのでもっと練習をして自分を高めて誰にも負けないぐらい強くなりたいと思っています。でもバドミントンばかりに熱中しすぎて勉強がおろそかにならないようにしなないとだめだと思いました。僕は将来は建築関係の仕事に就きたいなと思っています。そのためにはこの辺でいうと広島大学の工学部に入れたら一番いいかなと思っています。そして広島大学に行くには今全然勉強ができてなくてダメなのでもっと勉強しないといけないと思います。だから僕は、部活は全力でがんばり、でも勉強も手を抜かずしっかりやるこういう部活と勉強の両立を大切にしたい。これからがんばりたいと思いました。

津山高専に入学して

津山高専一年 佐藤 海斗

津山高専に入学して四ヶ月が経ちました。その間、驚きと発見の日々でしたが、発見の大多数は「自由度の高さ」という言葉で集約できるものでした。

まず、服装や頭髮に関する規定がほぼありません。持ち込み可能な物品についても、違法なものでない限り何を持ち込んでもよいことになっています。学校で自由に使える時間も多いです。

しかし、自由度が高いからといってたるんでいては、五年の憂き目に逢ってしまいます。高専は留年率が高く、五年間でおよそ三十パーセントの人が留年すると言われています。自由度の高い環境下でいかに自分を律することができかを問われるのが高専です。

「自律」の視点からこの四ヶ月間を振り返ってみると、まだ自律が足りていないと感じます。生活面では規律を保っていますが、学習面で少し怠け癖が出つつあります。物理の試験では赤点ギリギリの点をとってしまうこともあります。

高校生活

作陽高校一年 濱 田 祐佳里

高校に入学して、はや四ヶ月が過ぎてしまった。中学三年間もあつという間だったが、日々の時間が過ぎていくのは、振り返ってみると本当にはやいものだ。

まず慣れない混雑した電車通学。私の住んでいる所は、一時間に一本ぐらいしか電車がこない。毎朝、多くの人が乗っていて混雑している。その混雑している電車の中で勉強している人を初めて見たときはとても驚いた。

次に、一日七時間、八時間ある授業。土曜日まで学校があるのには驚いた。中学校の時とは違い、予習・復習の大切さを思い知らされた。課題も一度に出される量が多い。授業で理解できていないと課題も全く進まないし、その教科が嫌いになってしまうので、授業は大事にしないといけないと感じた。授業を理解するためには、予習をすることが必要だと分かり、予習をするようになった。

また、全国模試、中学の時は県模試を受けていたが、全くレベルや内容が違った。学校だけでも学習では、全く結果が残せなかった。私は自分で学ぶということがあまり得

自律と自学自習の癖を身に着けておかないと、後々に大きく響きます。特に三年から四年への進級は難しく、それを見据えて今の段階でしっかりと基礎学力をつけておく必要があります。幸い、ちょうど夏休みが始まるので、休みを利用して苦手科目を復習しておき、後期の学習に繋げようと思っています。

自由度の高さと自律の必要性以外にも、高専にはいくつか特徴がありますが、特に驚いたのは文系科目の少なさです。国語系科目と社会系科目は、合わせて週に七時間しかありません。内容もあまり濃いものではなく、世界史に至っては前期終了時点で古代文明までしか学習が進んでいません。後期末までに現代へとたどり着けるのでしょうか。

文系科目が少ない分、理系の授業は非常に多く、先述した物理を含めハードな科目が多いです。夏休みを通して数学や物理などを学び、学習に満ちた有意義な夏休みが送れるようにしたいです。そして、自律の力をつけて後期を迎えられるようにしたいと思います。

意ではない。中学時代からそうだ。与えられた事しかする気になれなかった。高校生になった今、自分で考え、今すべき事を一つ一つきちんとやり遂げていきたいと思う。

大学へ進学することを目標にするのではなく、自分自身の夢に向かって、夢を成し遂げるための努力をしていきたいと思う。

ハーゲンダッツをかけて

美作高校一年 久保田 実 歩

「ハーゲンダッツ」

先日、美作高校で球技会がおこなわれました。美作高校一年生女子はバレーボールをしました。そして私達のクラスは担任の先生と優勝したらクラス全員にハーゲンダッツを買うと約束をしました。女子は二チームにわかれたのですが、一チーム二人ずつバレー部がいて、皆でバレーの猛特訓をしました。先生にハーゲンダッツを買ってもらうために皆で力を合わせてがんばりました。

そして当日、私達はハーゲンダッツを絶対に食べるため、

円陣やかけ声に「ハーゲンダッツ」を取り入れました。男子の野球チームはおしくも負けてしまいました。女子のもう一チームは初戦で負けてしまいました。残るは私が入っているチームです。私達が勝たないと皆がハーゲンダッツを食べられないのです。

そして一回戦目、初戦で皆緊張していてサーブがあまり入りませんでした。ですが、アタックを沢山打つことができて、私たちのチームは一回戦をギリギリ勝つことができました。皆緊張していたので自分のプレーができなかったかもしれないけど、勝つことができてよかったです。

「よかったね。皆でハーゲンダッツって言ったから力を合わせることができたのかな。私達の方までがんばって。」とか、

「おめでとう。アタックとか沢山してて、めっちゃよかったよ。よかったよ。絶対優勝して、ハーゲンダッツ食べようね。」

と、皆に言ってもらったので、とても力がわいてきました。さんちようも少しはとけてきました。負けてしまった男子のチームにも沢山応援してもらいました。ハーゲンダッツを買う気の無い先生にハーゲンダッツを買ってもらうため絶対勝つと決めました。

二回戦目は、準決勝前の大事な試合でした。ここで負け

が

「私がとるから」

と言いました。ボールが飛んでいって、皆がダメだと思いました。でも、ギリギリの所でレシーブできて、アタックをして点をとることができました。すごく大きな歓声が飛びました。

「すごいな。とれたがん。やればできるがん。ハーゲンダッツ。絶対勝とうで。このまま行くで。」

と沢山応援してもらいました。

「次は決勝戦です。絶対勝つで」

皆の気持ちが一つになりました。

いよいよ決勝戦です。相手はバレー部が三人もいて、強敵です。相手のサーブが速すぎてバレー部以外とることができませんでした。でも私達のサーブは速さは無いけど、コントロールがよくできていたので、とってとられてのくり返しでした。そして残り二分まで、くり返しをしていましたが、相手がサーブミスをしてしまいました。やっとチャンスがまわって来ました。そこから私達はどんどん責めました。サーブも成功し、アタックもどんどん打つことができました。そして今日初めてブロックもすることができました。すごくギリギリの試合でしたが、勝つことができました。皆の気持ちが一つになって、より一層仲を深める

たら優勝してハーゲンダッツを食べるというみんなとの目標が無くなってしまおうと思ひみんな自分なりに努力した試合でもありました。相手が、自分達のチームからしたらとても強いチームだったので、みんなの気分もあがり盛り上がりしました。

楽しんだものが勝てる、という気持ちで私自身、精一杯努力しました。試合中、自分がミスをしてチームメイトが「ドンマイ」という励ましの言葉をかけてくれたので、気持ちも高まり、二回戦目も見事勝利することが出来ました。

二回戦目も勝てて、優勝、そしてハーゲンダッツというチーム全員でした目標を達成することが出来るかもしれないと思ひ二回戦目の勝利した喜びをチームメイトと一緒にかみしめました。次は、準決勝なのでまたチーム全員で気持ちを高めてハーゲンダッツと優勝という目標を達成しようと思ひました。

三回戦目は準決勝です。相手にもバレー部が二人いて、サーブもアタックもとても速いです。相手がサーブの時、あまり運動がとくいではない子にサーブが飛んでしまい、その子がギリギリ取れずに一点を相手にとられてしまいました。次もその子の所にサーブが飛んでいきました。皆とてもあせってバレー部の子がとろうとしましたが、その子

ことができました。

皆で抱き合ってよろこび合ったり、泣いている子や安心している子もいました。そして先生にハーゲンダッツを買ってもらって、皆でおいしく食べました。球技会がとても良い思い出になりました。

近況報告

岡山朝日高校一年 井上 彪 馬

特に書きたいこともないので、この春から始まった高校生活について簡単に話そうと思います。

まず、勉強のことから話します。高校の勉強は、中学校の勉強と違って、予習や課題が多く、入学して四ヶ月が経った今でも、時間の使い方がわからず、効率よく勉強することができていません。夏休みも残すところあと少し、正直課題が終わる気がしません。学校の先生は「朝日の宿題は少ない方だ。」とおっしゃっていたけど、本当にそうなのだろうか。とりあえず、残された時間は少ないですが、死ぬ気で終わらせようと思います。

次に部活です。中学校ではソフトテニス部に入っていて、高校からは硬式テニスを始めたのですが、硬式テニスを初めてやったときは、あまりにもソフトテニスと違う点が多かったので驚きました。僕は運動神経が良い訳ではなく、あまり得意なことがないので、この三年間はとにかくテニスを頑張ろうと思います。もちろん勉強も……。八月中旬にいくつか公式の試合があるので、良い結果が残せるようにより努力したいです。

最後に進路について。今まで僕は将来のことについては、「まだ早いだろう。」とあまり考えていませんでした。しかし今、何も考えていなかったがために、文理選択で困っています。「もっと早めに考えておくべきだった。」と後悔しています。文理選択は、自分の将来に関わることなので、じっくり考えたいと思います。

もう書くことが思いつかないので、これで終わりにします。

自分の将来

美作高校一年 津 本 宥 海

最近僕は自分の将来についてふと考えることがあります。十年後、二十年後に自分は何をしているのか、どこにいるのか、ちゃんと職に就いているのか全く想像が付きません。でもそんな僕には目標があります。保育士になることです。僕は子供が大好きで子供と触れ合い成長を見守ることが出来る素晴らしい職業だと思い、将来保育士になれるよう日々頑張っています。この目標が決まったのは去年の夏のボランティアで保育園に行ったときです。僕は三日間保育園でとても貴重な体験をすることができ、多くのことを得ることができました。子供たちと接するときは相手と同じ目線になって話すことが大切なんだと感じました。ほかにも体験しないと分からないことがたくさんあり本当に良い体験になりました。このボランティアを機に保育士になりたいと思いました。

僕は保育士になるという目標に向けて何かを習慣づけたいなと思います。何かを習慣づけることは一日、二日ではなんともなりません。しかし一ヶ月、一年、五年と積み重

ねていけば大きな力になると僕は考えています。まずは小さなことでいいと思います。例えば

「毎日十五分ランニングする」

「毎朝六時に起きる」

こういった具体的な習慣をつけることで自分に目標達成能力が身につくと思います。目の前の目標を達成していくことで最終的には自分の保育士になるという目標に繋がると思います。だから僕も何か習慣づけ目標を達成したいと思います。

インターハイを終えて

岡山工業高校一年 小 林 桜 子

今年のインターハイは中国地方を中心に開催されています。私の所属している部活の陸上競技は七月二十九日から八月二日までの五日間、岡山市にあるシティライトスタジアムで行われました。

私は、今年のインターハイには選手として出場することができませんでした。しかし、陸上競技は地元開催という

ことで大会の補助員として大会に携わることができました。補助員の仕事はインターハイがはじまる前からたくさん準備がありとても大変でした。そして、大会が開催され、競技がはじまると今まで以上に忙しく疲れることも多くありました。それでも補助員をやっていく中でインターハイという全国でトップの人々が争う大会ならではの印象のような場面も多く間近で見ることができました。特に印象に残った場面は私が男子棒高跳びの補助員をしている時に日本高校記録に挑戦し、成功して新日本高校記録を出した人がいたことです。また、他の種目でも大会記録を突破されていくのを見てすごいなと思いました。

また、私は補助員としてだけではなくスタンドから応援したりなどをして大会に携わることもできました。岡山県からもたくさんさんの選手が出場し、岡山工業高校の先輩もインターハイという舞台で全国の人たちと戦っているのを見てください。いいなと思いました。

今年のインターハイの陸上競技は岡山で補助員、応援という仕事をもらえてとてもよかったなと思いました。一年生で全国レベルの選手を近くで応援することができ、インターハイに出場するという私の夢は自分の中でもっと大きくなりました。五日間という短い期間でしたが応援や補助員という裏方の仕事の大切さも知り、他にもたくさんこの

とを学ぶことができました。これからも毎日の練習を頑張り来年、再来年は応援される方の選手になりたいと思いました。

部活動

倉敷中央高校一年 片 山 歩

今年の四月から私は倉敷中央高校に入学しました。私は中学の頃から陸上部に所属しており、高校生になってもちろん陸上部に入るつもりでした。現状、私は陸上部に所属しています。今回は、部活動のことについて書いていこうと思います。

倉敷中央高校の陸上部は県内でも有名だと思います。そのため、練習はかなりえらいものだと思います。私の思っていた通りえらくてつらかったです。中学の頃とは練習量や質が大幅に違いました。初めは一年生だからといって本数を減らしてくれていましたが、もうこの時期になると先輩方と同じ本数になってきて、ついていくのがとても大変です。でも、全てのメニューをやり遂げた時の達成

近況報告

就実高校一年 植 木 龍 翔

期待と不安で始まった高校生活も、あつという間に一学期を終え…。

中学校までの持ち上がりとは違い、誰一人知らないクラス。少々不安ながらも、新鮮でワクワクしたのを覚えている。

幸いな事に、皆、親切で楽しい仲間達で、すぐに打ち解ける事が出来た。部活の先輩も礼儀、トレーニング、走り方、勉強まで、教えてくれるとても頼もしく尊敬出来る方々だ。

そんな恵まれた環境の中だが、勉強と部活の両立は、中学のときのようにうまくいかず、なかなか大変だ。通学の距離も増え、きついトレーニングも増え、スピードの早い授業で予習、復習、宿題の量も増えヘトヘトの毎日である。懇談時には、勉強量と比例したような結果が予想通り帰って来た。これはまずいと思ったが部活を辞めて勉強をやる。その選択肢はなかった。

部活を辞めて、勉学に励んで、それなりの成績を修めて

感が最高です。そして、自分がえらくても後輩に声をかけたりしてくれる先輩方のことが私は大好きです。いつも笑顔で雰囲気がとても良くて有名な選手と練習できることがとても嬉しいです。私もこんなに環境のいい所で練習できることに感謝して強くなっていきたいと思います。

そして、先日行われた岡山インターハイのことについても少し書きたいと思います。まずは三冠をとった先輩。この先輩は日本代表のリレーチームに入っていてとても尊敬しています。そして、幅跳びで三位の先輩、百メートルで八位の先輩。ほんとにどの先輩もすごいと思います。また、私が今回のインターハイで感動したことがあります。それは、四×一〇〇mRで優勝したことです。去年のインターハイでやつとの思いで三位に入ったそうです。そして今年の優勝。私は生でこの瞬間を見ることができてとても感動しました。改めて、先輩方はかっこいいと思いました。

私たちの合言葉「夢叶う」。地元岡山インターハイで一つの夢が叶いました。

いる友人もいたが、私の性格上、ついダラけてしまい、本末転倒状態になりかねない。自分の性格は、重々承知だ。

先輩に雑談がてら相談すると「疲れて帰って来て大変だけど帰ってすぐに復習なり予習をする。そして切り替えだ。」と教えてくれた。正直キツイと思ったが休憩後は更にキツイ。

わずか十五年の経験上だが、努力がすぐに報われた事はない。特別な人を除いては、陸上でも結果が出るまでに一、二年かかると言われた事がある。私も、中学の頃を思い出すと、二年の夏から少し結果が出始めた。苦しくとも楽しんでトレーニング出来ていたというのが習得のポイントなのだろうか。これが初めて努力して良かったと思えた瞬間だった。勉強を楽しんでやるという人も、中にはいるが、私には正直無理だ。しかし、目指している目標に近づけるよう、二学期以降は限られた時間を有効利用し切り替えの出来る生活を送っていききたい。

今まではスマートフォンが時計代わりだったがスマートフォンだと違う事になってしまいそうなので、これからは時計を付けて時間を気にしながら引きしめていこうと思う。

高校と人間関係

岡山芳泉高校一年 栗山裕唯

高校に入学してから四か月が過ぎた今、私はとても良い人間関係を築けたと思います。

私は人見知りの激しい性格なので、知り合いの一人もないクラスでやっていけるかとても不安でした。入学式当日やその後数日は人と話す機会もあまりなく、私だけなくクラスメイトみんながとても静かで、自分の肌に出るかと思ひ、焦りました。しかし自己紹介の場が設けられた直後、急に教室が明るくなりました。何事もきっかけがあれば踏み出しやすくなり、自分から話しかけることもできました。

その後の「芳泉合宿」ではスタントや球技大会などを通してクラスの仲も深まり、今まで話したことなかった人とも喋ることができてとても満足しました。

また、私の入った弓道部は一年生が多く、そこでも交友関係の輪が大きく広がりました。

また、さすが進学校とでも言うのか、休み時間のにぎやかさを授業中は忘れたように静かなのです。しかしグルー

間は、初めのうちは疲れました。

入学してすぐに、中学校とは違い進路学習があり、毎週ロングホームルームで学習しています。三年後の進路のために入試制度や学部を調べました。

一学期の間に何度も進路講演会があり、勉強することの理由や毎日の暮らし方などのとてもありがたいお話を聞くことができました。どの講師の方も決まって、早いうちから目標を定めるとか、将来の夢を見つけるとおっしゃっていました。自分は将来の夢が決まらなかったもので、進路学習をしていくうちに自分の適性を知れたり、興味のある学問が生かせる職業がわかったので、すぐ役に立ちました。

そうして、やっと将来の夢が決まりました。今の自分ではまだ全然叶わない位置にいますので、毎回のテストで結果を出していかないとだめです。点数じゃなくて解き方にこだわっていききたいです。そして、自分の将来の夢を叶えるのと、学びたい学問が学べる大学に入れるように大学受験までの二年と半年がんばります。

プの話し合いはそれぞれの個性を表に出して、とても内容の濃い話し合いになります。

高校という場で築いた関係を一生ものにできるように、言動に気をつけながら何事も楽しんで努力を続けていこうと思います。これから勉強も部活動も大変な時期になりますが、やはり環境で心持ちやモチベーションは変化します。常に高い志を持っていられるよう、まずは円満な人間関係の中で過ごしていきたいです。

二年と半年後の夢

就実高校一年 上原志保

四月に初々しい気持ちで高校に入学してから既に四ヶ月が経ちました。一学期の間にスタディーサポートや定期考査、課題テストに他にも進研・駿台模試など中学校とは比較できない程テストがありました。入学する前にいろいろな人に高校は勉強が大変になると聞いていましたが、正直自分の想像以上でした。特に七時間授業はびっくりしました。そしてその後のアドバンスタイムという自習をする時

インターハイの補助員

岡山芳泉高校一年 笠富花

七月二十九日から三十一日までの三日間と八月二日から四日までの計六日間、岡山県備前市のテニスコートで行われたソフトテニスのインターハイの補助員をしました。

本番までは、顧問の先生に言われたから行く。毎日会場まで片道一時間かけて行き来する。夜遅く帰り朝早く出る。わたしたちの仕事は忙しく走り回る仕事。夏休みが一週間潰れる。ピリピリした空気だから大人に怒られる。など本当に沢山の不満がありみんな積極的にはなれずいやいや補助員をする気持ちでした。

本番、仕事はもちろんきつく沢山怒れましたが仕事の合間や仕事が終わる時に見れる時には試合を見ました。すると、今まで補助員として働いてきたわたしたちの不満や疲れを吹き飛ばしてくれるくらいの素晴らしいプレーばかりでした。初めて見る、インターハイレベルの選手のプレイスタイルや技術に感動したのはもちろんですが、なによりも感動したのは、選手を応援し、勝利を祈る仲間や家族の姿、それに応える選手の姿です。一点を取るとどちらかのベン

チが「キャー。ナイスボール。このまま。」と湧き、またもう一方のベンチからは「まだまだ。一本ずつ。これからよ。みんながついてる。」など励ましの声が聞こえてきました。試合が終わると、勝ったチームはみんな嬉し泣き、負けたチームはみんな悔し泣きとどのチームも選手や監督だけでなく遠くから応援に來た全ての仲間が団結していました。

このインターハイの補助員という役をやらせてもらい、言葉ではあらわせないほど沢山の感動をもらいました。本当に、良い経験ができたと思います。

高校生になって

倉敷高校一年 四野見 祥子

高校生になって早くも四ヵ月を経とうとしています。凄く早く感じます。

高校に入学するときは、勉強についていけるか、友達ができるか、とても不安でした。けれども今は、友達もでき、部活にも入り、高校生活は毎日充実しています。

二年生になって

岡山朝日高校二年 植本 圭祐

気がつくともう高校生活の半分が過ぎました。二年生になってからの日々を振り返ってみようと思います。

二年生になってからは、去年よりも部活に熱中するようになりました。後輩が出來たことによって、先輩としての意識が生まれたからだと思います。また、先輩が引退したので、自分たちの力で試合に勝たないといけないので、一層精を出しています。つい先日合宿がありました。恐ろしい程暑く大変でしたが、二泊三日真面目に練習したので、それなりに成長出来てもうすぐある試合に強気で挑もうと思います。

勉強は、手を抜いてはいませんが去年の時よりは出来ていない気がします。ですが、今は秋の試合に向けて部活を頑張り、勉強は現状維持でいこうと思います。勿論、勉強への意識が下がった訳ではないので、効率良くして高みを目指そうと思います。

最後になりましたが、八正会の皆様、多額の奨学金をありがとうございます。

最初は部活に入る予定はなかったのですが、友達と一緒に軽音部に入りました。そこで「文化祭での演奏を成功させよう！」と新たな目標ができました。これから、憧れのステージに立って文化祭を盛り上げるために練習を一生懸命がんばりたいと思います。

しかしながら、高校に入って、いいことばかりではありません。私はよく担任の先生から「けじめをつけなさい。」や「掃除をしっかりしなさい。」と怒られます。自分自身、腹立ちますけど、後々から考えると、「しっかりしないな。」「ちゃんとやらないとな。」と思うことがあります。

実際に、放課後、教室に残っているのに関わらず、友達と遊んでいて、先生に「けじめつけろ。」「家に帰って勉強しなさい。」と言われたけれど、勉強しなかった時期があります。その結果、期末テストでは成績がガタ落ちしてしまいました。このことから、次回はしっかり勉強をがんばりたいと思います。

最後に、ここまで高校生活が充実できているのは、支えてくれた私の母、学校の先生、そしてお金を援助してもらっているトンボ会の皆様のおかげだと思います。いつかどこかで恩返しをしたいと思います。本当にありがとうございます。これからも高校で勉強や部活をがんばっていききたいと思います。

やりたいことをやる

岡山一宮高校二年 小竹守 花恵

やりたいこととやるべきこと、どちらを優先すべきかと聞かれるともちろんやるべきことだろう。あたりまえだ。しかし私は最近よく思う。別にどっちでも良くないか、と別に誰が何をしようと、その結果が返ってくるのはその本人だ（ただし人に迷惑をかけるのはだめ）。そこで私は自分のやりたいことをやることに決めた。

私がやりたいこととは、ずばり部活だ。正直、私は部活人間だ。思い返せばこれまでのやまびこにも毎回部活が登場している。今の生活は部活九割勉強一割の比でできている。こんなことを言うと怒られてしまうかもしれないが…。

そして私は絶賛成績下がりに中だ。それでも部活を疎かにしたくない、絶対に。私は弓道部に所属しているが、それほど弓が好きなのだ。だいたい割り切った考え方だが、とっても大切な人がいるか、夢中になれることがあるか、やりがいのある仕事があるか、一生遊んでられるお金があるか、どれか一つにでもあてはまれば人生良いんじゃないかなと思う。超絶主観的な考え方ではあるが、私は部活をやって

るときが一番楽しいのは確かだ。成績が下がっているとしても…。

それでも志望校に行くということもまた、やりたいことの一つではあるんだよねあ…と思う。どういう考え方をしても勉強は避けられない道なようなので、部活を優先しつつもやっぱり勉強はしようと思ってしまうた。でも引退まではやりたいことさせていただきます。

近況報告

津山高校二年 産 本 龍

早いもので、長いと思われた高校生活も、もう後半に差しかかろうとしています。関係ないことですが最近とても暑くて我慢なりません。法律でエアコンのエコ設定を義務付けてほしい気分ですね。エアコンをガンガンにかける人は自身が地球を熱しているのだという自覚をもっていたみたいです。

さて、最近調子が割とよろしいです。相変わらず東京は見えてきませんが、勉強は多分人生で一番頑張っています。

流しに入ってしまったては、その人の人生はそこで潰れたも同然ではないでしょうか。最も重視されるべきは私の中では五十代です。これは個人でそれぞれ異なる時期を重視すればよいのですが、高校に入学した以上、その時期が十代半ばであればそれは矛盾ではないでしょうか。

長々と分かったような口をきいてきましたが、結局言いたいのは私は欲にとらわれまいとすることです。以上、研修前日の深夜テンションでお送りしました。

地元が好き

岡山操山高校二年 佐 伯 吏咲子

私は、岡山の街中から少し遠く、田舎の雰囲気溢れる所に住んでいる。ある日、私はパンクした自転車を修理するため自転車屋へと向かった。

向かう途中、小学生の頃、通学路だった道を久々に歩いた。すると、昔は大きく感じていた道が今では幅が小さく感じるようになっていて、自分の身体が成長したことをしみじみと実感した。

進研の判定は物の見事に千葉大以外DかEという悲惨極まるものでしたが、それは試験形式が悪いのです。私は元より理社で稼ぐ生き物です。見ておれ Benesse、十一月は目に物を見せてやる……。

それはさておき、我らが愛すべき偉大すぎる超名門校・津山高校様は文武両道を強く推進しておられますので、勿論勉強以外にも精を出しています。生徒会長になりましたし、弓道部の副部長にもなりましたし（大会成績は点で話になりませんが）、恥ずかしいながら人生初の girlfriend もできました。ということ夏休みだというのに家にほとんどおらず激務に喘ぎ血反吐を吐きながら更なる仕事を求め号哭するという夢の国にも劣らぬような想像を絶する非常に「楽しい」日々を送っています。そんなこの上なく充実した毎日を過ごしていく中で、最近思うようになったことがあります。それは今を人生の絶頂にしていけないということです。確かに高校生活は人生において最も楽しい時間として語られがちです。しかし、あくまでも人生の通過点であることを忘れてはいけないと思います。私には文部科学大臣という大それた夢（あえて周囲に言いふらすことで自分に現実味を持たせる政策を採用しています）を持っていきますし、夢がある人は私だけでなく当然たくさんおられます。夢とは追うべきものであるはずなのに高校で

そして、自転車屋に着くと、いつも店内でテレビを見ているおじさんが出てきて、その場ですぐにいつものように修理してくれた。それは、一〇分程度なのだが、その間私はいつも修理作業を見る。作業が間近で見れるのは田舎の自転車屋だからできるのだと思う。

その後、最近足を運ぶことが減っていたホームセンターへ買い物に寄った。すると、私と小・中学と同じだった仲の良い友達がバイトでレジをしていた。

私はその友達を見て、自分の年代は働ける年齢となり、既に社会に出て働いている人もいるんだな、と実感させられた。また、友達に負けないように自分が課せられた試練である勉強・部活を頑張ろうという意欲も湧いた。

こうして、自転車屋に行くだけのつもりが、色々な出来事があり、その度に私は色んな事を感じ刺激を受けた。その上、地元でしか感じる事ができないことばかりだった。

少し通学時間が長くて嫌になっても、田んぼばかりでつまらなくても、自分の成長が感じられ、人との繋がりが強くあるこの地元が私は好きだ。

出会いを大切に

岡山操山高校二年 杉岡 大輝

「やれば、できる」この本は、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊さんが書かれた本です。小柴さんは二〇〇二年にニュートリノ検出の功績が認められノーベル賞を受賞されました。そんな偉大な方が書かれた本であるため、私はとても難しく、お堅い文章なのだろうと思って読み始めました。

しかし、私の思いは全くの間違いでした。小柴さんは幼い頃小児マヒにかかり、不自由な生活を送っていました。けれどもリハビリを頑張る事で自由を取り戻しました。また高校での成績が良くないことや、実験での資金が足りなくなったことなど、小柴さんにも様々な苦労や失敗がありました。その度に「やればできる」をモットーにして知恵をしぼり、困難を乗り越えていきました。私は今まで失敗をすればそこで終わりだと考えていましたが、「やればできる」ということで、成功へとつながると分かりました。

また、私は「出会いを大切にする。」ということ学びました。小柴さんは最初から物理の道へと進むうとしてい

た訳ではありませんでした。恩師である金子先生に出会い、物理学者になろうと思い始めたと言います。また朝永先生に出会ったことで、様々な挫折も乗り越えられたそうです。このように、人との出会いは自分の人生の中での大きな出来事であり、自分の運命を左右します。学校の仲間、先生、八正会の仲間たち、全ての良い出会いを大切に生きていきたいです。

高校二年生になって

倉敷古城池高校二年 小西 菖

高校二年生になってもう四ヵ月がたちました。四月にはクラス替えがあり、一年生の頃に仲の良い友達と離れてしまい新しいクラスでまた仲の良い友達ができるのか不安だったけど四ヵ月たった今ではクラスに馴れ仲の良い友達もできとても楽しく過ごしています。一学年上がり勉強は去年よりはるかに難しくなり、課題の量も増え大変だけど部活との両立ができるよう何とかして頑張っています。また、二年生の夏になりそろそろ将来のこととかを考えな

ければなりません。私はまだどこに行きたいなど全く決まっていないので少しずつ考えていこうと思っています。

そして、もう少しで毎年恒例の藤花祭があります。補習が始まればその準備なども同時に始まり今以上に忙しくなると思います。ですが、勉強や部活をおろそかにしないよう努力し藤花祭の準備なども手伝ったりできるように私なりに時間を作り考えて動けるようにしていきたいと思います。

人生とは

岡山城東高校二年 青山 公士

私はこの度、住野よるさんの「また、同じ夢を見ていた」という本を読みました。なぜこの本を読んだかというと、友達が住野さんの前作である「君の臍臓を食べたい」という本を読んでいて、その新作だということと本屋で見つけてすぐに買いました。

この本の主人公は小学生の女の子です。でも、ただの女の子ではないのです。彼女はともかくこくて大人が驚くような考えをいくつも言います。ですが彼女には友達が

ません。いや、正確に言えば「学校に」友達がいません。そんな彼女の友達は一匹の黒猫、アバズレさん、おばあちゃんです。そんな少女が幸せとはなにか、人生とはなにかを考えていくというお話です。

さて、そんな彼女にはある口ぐせがあります。「人生とは：。」こんな小さい子供が人生を語るなんて、と思いきすよね。これは彼女なりのジョークなのです。例えば「人生はプリンみたいなものだ」というセリフがあります。次の文を読んでからやつと意味がわかります。小学生のころからこんなジョークをかませるなんて、自分には到底むりだったなと思いました。ですが、この本ではジョークではなく人生とはなにかということをも本当の意味で考えさせられます。

また、彼女は学校の授業で幸せとはなにかについて考えていきます。その幸せの答えをだすためにいろんな大人たちと出会い、そしていろんなアドバイスをもらい、成長していきます。今の私だから話の内容が理解できるが、小学生の私なら、彼女ほど考えて、理解して行動するなど絶対できないでしょう。そう、私もクラスの馬鹿な子たちと一緒にだったでしょう。

幸せとはなにか、人生とはなにかについて考えさせられるお話ですが、私はこの二つは同じだと思います。生きる

ことが幸せであり、幸せでいることが生きていく理由なのだと思います。アバズレさんは「幸せとは、誰かのことを真剣に考えられることだ」と言います。たしかに、誰かのことを考えると心が暖かくなって胸がいっぱいになるなと思います。

人生とはなにか。たしかに人生とはプリンのようなもので、甘い部分も苦い部分もあるけれど、苦い部分もあるからこそ人生とは有意義なものになるのではないかと思います。人生とは誰かのことを想って生きることであり、それは幸せであるということがわかりました。

読書感想文らしきもの

岡山東商業高校二年 三宅 竜矢

今回僕が読んだ本は「十翼の破壊者」という本です。

この本は僕がいま遊んでいるゲームの中で一番はまっているゲームで、ブレイブフロンティア（通称ブレフロ）のストーリーを元に作られた本です。この本の感想文はブレフロをやっていないと思うので、ブレフロをやってみてく

ださい。

この本のあらすじは、ある召喚師のレダは知識を司るインテリト族のリントからグランガイアに眠る英霊たちの「記憶のカケラ」の搜索依頼を受ける。彼女はグランガイアに赴き、魔物が蔓延する廃都ラ・ヴェダの奥地で、目的の物を見つけだす。「記憶のカケラ」に触れたレダに流れこんできたもの。それは十枚の翼を持つ破壊者・メルキオに立ち向かった、紅蓮の斧使い・ミセルたちの激闘と、そして友情と絆の物語、というのがあらすじです。

この本にでてくるミセルのわがままぶりや機械なのに感情らしきものを見せるDUEL-EX、ティアラやロディン、ゼルバーンとの出会い、何故協力してメルキオと戦うことになってしまったのか、そしてミセルが異界に消えてしまうまで詳しく語られていて、すごくおもしろいです。

メルキオやDUELなど「六鎧」のことについて書いてあります。六鎧はメルキオ、DUELの他に、クエストの第二章にもでてきたイシュグリアの八体の魔神の一体の名をもつベイオルグ、パルミナの国の王女の覇鎧の麗神姫エデアの着ていたラフドラニア（六鎧とあるがちゃんとした鎧はラフドとヴィシュラのみ）、この事の原因となったヴィシュラ、そして、六鎧の開始者の実の妹レーゼ、レーゼは最初は、人間でしたが、ヴィシュラを探すために兄と別

れ、グランガイアへ行き、探していると、兄から部品が送られてきて、その部品を装着したら、六鎧になった、ということです。これ以上書くとも長くなるので以下略。こういうところもあるのでブレフロはやはりおもしろいなと思いました。

小説になることで各キャラクターの感情の揺れ動きなどがとてもよく解ります。グラフィエやユニット図鑑の情報だけでは補えない部分を、上手く表現できていて、読んでいておもしろかったです。

小説オリジナルのキャラのレダは、帝都ランドールの図書館にいるリントから「英霊の記憶のカケラを探してほしい」という依頼を受けます。メインストーリーと同じ現在に生きている、召喚師です。その旅で見つけたカケラに触れたことでミセルのいた過去に触れていきます。召喚された英霊たちはなにも語らない、というのは公式のニコ生、ブレ生の質問コーナーでも明言されています。

僕はこの本を今更読んでみて、グラフィエでわからなかったところもよく書かれていてよかったと思いました。今では幻創進化もできてますおもしろくなってきたのでL1999の報酬の最強のスフィア、終天儀ログライザー目指して頑張ろうと思います。

時間

岡山城東高校三年 小林 陽一郎

部活も引退していいよ受験生となりました。夏休みはどこが休みなのか分からないくらい勉強に追われています。最近受験勉強をしていく過程で「時間」の長さとか切さを痛感しています。

僕が中学生の頃担任の先生に、

「俺は高三の時休日に八時間勉強してたぞ。」と、自慢されたことがあります。その時は、「先生絶対嘘ついているな、一日八時間勉強なんてできる訳がない。」と思っていました。しかし実際自分が高三になるとその考えは容易に覆りました。一日八時間勉強するなら朝二時間、昼四時間、夜二時間で終わりです。八時間睡眠でも八時間自由時間があります。僕が中学生の時から今までいかに計画性が無かったか身に沁みて分かりました。

一日二十四時間では少ない、と思う人がいると思います。確かに部活をしていた時は僕も思っていました。でも受験生はそんなことはないと思います。自分で計画を立てて集中して勉強をすれば案外一日は長いです。これからの計画

をしつかり立てて第一志望の九州大学合格を目指して頑張りたいと思います。

余談になりますが、勉強の合間には糖分を取ると脳が活性化されて集中力が上がるらしいですよ。受験生の方々は適当に気分転換の時間も取って頑張りましょう。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金をくださる八正会の皆様有難うございます。

良かったこと

津山高校三年 戸田 花

今年の夏で、十五年間以上続けてきた水泳人生を終えました。大学行つてからも続けないの、とよく聞かれますが、正直もうこりごりです(笑)

水泳から学んだことはたくさんあります。その中で特に大切だと思うのは、基本的な礼儀と忍耐力です。いわゆる体育会系のような訳のわからない上下関係ではなく、社会に出てからも必要とされる礼儀を学びました。例えば、集合時間より前には場所に着いておくこと、年上の先輩やコ

ーチには自ら出向いて挨拶をすることなどです。小学生のころに、そういった考えを定着できていたということは凄く良い事だったと思います。また、忍耐力というのは、練習中きつくても妥協しないという短期的なこと、何年スランプが続いても辞めないという長期的なことを乗り越える強さです。何をするにしても、必要な力だと思います。この二つは、水泳ではなくてもスポーツや部活に打ち込めば学ぶことのできることもかもしれませんが、私は水泳をしていたからこそある程度身に付けることができたのではないかと思います。

そして、水泳を続けたことで大切な友達もできました。一人は才能が開花し、オリンピックに向けて大学でひたすら練習に明け暮れている人。もう一人は身体を壊し、上手く泳げなくなっても共に引退まで水泳を続け、今は大学受験に向け勉強に打ち込む友達。どちらも十年以上の付き合いですが、誰よりも勝ち気で誰よりも努力家な人達です。

この二人と友達になれて本当に良かったと思います。二人を見ていると、自分も頑張らなきゃなという気にさせられるからです。

結果的に嫌な思い出もたくさんあったけど、水泳やってきて良かったです。続けさせてくれて本当にありがとうございました。

高校三年間の振り返り

岡山操山高校三年 熊谷 舞佳

「気づいたらもう、二年が経っていた。」こんなことを考える高校三年生の夏です。まるで、ぷち浦島太郎気分です。本当にあつという間で、高校の入学式がまだ、つい最近のことのように思えています。入学したての頃に、色々な人から「高校生活はあつという間に終わる。」「後悔しないように。」と幾度となく聞きましたが、本当にあつという間でした。二年前に想像していなかったことがたくさんあります。楽しさも忙しさも、今までとは比べ物にならないほどです。

さて、今回は二年前の夏、この「やまびこ」の原稿として提出した作文に記した三つの目標と共に、私自身の高校生活を振り返ろうと思います。

まず一つ目の「部活動を最後までやり遂げること」です。これは、無事達成できたように思います。自分の持つ力の限り、最後までやり遂げたつもりです。楽しさや悔しさ、達成感などを感じた様々な経験をし、色々と物事を考え、部活動を通して、人としてもいくらか成長できたよう

に思います。大人になっても仲良くしたいと思える、大事で大好きな友達もできました。とても居心地がよく、落ち着ける癒しの場所も見つけました。今日までの、高校生活の大半の思い出は部活を通じて、得たもののように思うほどです。

二つ目の「様々なことに意欲的に取り組むこと、特に積極的に海外への研修に参加する機会を見つけること」です。これについては、もう、完全にクリアです。この高校生活、約二年間の間に、三回も外国に行く機会を様々なところからいただきました。一回目にして、初の海外は、修学旅行としてのシンガポールとマレーシア、二回目は研修としてのニュージーランド、三回目は学校の交換研修のオーストラリアです。自分の想像以上の多くの機会をいただきました。

三つ目は「進路を決めること」です。これは、納得がいくまでたくさん考えました。教育学部の教員養成系に進み、学校の先生になるための実践的な力を身に着け、現場で役に立つ先生になる、これが今の私の目標です。高校生活もあと僅かですが、次はこの目標に近づけるように、今するべきことを的確にこなしていきたいです。

最後になりましたが、いつも温かいご支援と多額の奨学金、有意義な研修をありがとうございます。先に述べたよ

うな経験や充実した高校生活を送ることができているのは、たくさんの支えがあつてこそのもだと常々感じています。高校生活の残りもあと半年ほどですが、今後もうぞよろしく願ひします。

部活引退

就実高校三年 栗山 恵 輔

今年の春、僕は部活を引退しました。中学と同様バスケットボール部でした。そこで出会った先生は僕にとって尊敬すべき人でした。男性ですがなんと家庭科の教師ですが、明るくとても親身になってくれる先生でした。僕の入った当時バスケット部は部ですらなく同好会という扱いでした。知っての通り就実高校の女子バレー部や女子バスケット部はかなりの強豪であり、我々男子バスケット部はとても肩身が狭かったです。体育館も使える時間が限られしょっちゅう外で練習しました。そんな中先生は「練習場所を言い訳にしない」といつも説いてきましたし、それも考慮に入れて練習メニューを考えてくれました。練習のために外部の体育館

を借りたり、練習試合を積極的に組んでくれたのも先生です。この先生のもとで三年間バスケットをしたいと思いますでしたが、二年の終わり、先生が別の学校に行くという知らせが入りました。正直ショックでしたがそれでも先生に教えられたことをいかしてがんばりました。そうしてむかえた最後の試合、相手校はなんと先生が行った学校でした。結果は敗退で、僕自身もケガでほとんど試合に出ることができず悔しかったです。試合後先生は僕たちの所に来て話をしてくれました。先生の目には涙がうかんでいましたし、僕らも泣きました。これで僕の高校バスケットは終わりました。これからは大学に向けて勉強しております。とはいっても家じゃまったく勉強できないので絶賛焦り中です。これから挽回したいです。先日、息抜きもかねて部活に顔を出しました。体力は落ちてましたがやはりバスケットは楽しいです。大学でもバスケットしたいですね。

最後になりましたが八正会の皆様、あとわずかですがよろしく願ひします。

今後の目標

瀬戸高校三年 檜原 勝也

僕は高校三年生になり、七月で部活動を引退しました。今までの高校生活を振り返ってみると、勉強にはあまり力をそそがず部活の野球を目標に向かって毎日力をそそいできました。ですが部活動も引退して、受験生となりました。僕は瀬戸高校には、大学へ行くために入学したので、これからの目標は、自分の志望大学に受かるように勉強をがんばることです。

さっき言ったとおり高校生活を振り返ると本当に勉強をしてきませんでした。二年生の三学期や三年生になってから学校で大学受験についての集会や先生からそういう話が多くなってきた。それがあつた。今日から受験勉強を始めようと決意しますが、自分の意志が弱く受験勉強に取り組めていません。三年生になってからの模試ではとても悪い結果ばかりで今のままではとうてい大学には受かりません。なので夏休みに入ってから僕は心を入れ替えて勉強に取り組んでいます。ですが今日はいいかとだらだらしてしまう日がときどきあります。そのときは今までがんばってきた

部活動のことを思い出してやる気を出しています。野球をすることで学んだことは、野球の技術だけでなく、それよりも大切なことが多くあります。なので今受験に向けて、勉強を全力で取り組むことが出来ない、今まで野球をしてきた意味がないと思います。受験まであまり時間はないですが全力で頑張りたいと思います。

貴重な経験・パート二

倉敷青陵高校三年 井上 真実

「ウルトラソウル！」
色とりどりのメタリックテープが打ち上げられ、会場内は盛大な拍手に包まれた。拳を突き上げた出演者は、皆満面の笑みを浮かべていたに違いない。

七月二十八日、平成二十八年全国高等学校総合体育大会、いわゆるインターハイの総合開会式がジップアリーナ岡山で行われた。出演者、というのは部活動でダンスやマーチング、合唱などに取り組んでいる県内の高校生だ。この日行われた公開演技で、約四百人の高校生たちは一体と

なり、選手のさまざまな心情を一つの物語にして表現した。各都道府県の代表選手はもちろん、皇太子殿下や数千人もの観客が見守る中、迎えたフィナーレが冒頭である。

コーラス部を既に引退している私も、この大舞台に合唱隊として出演する機会に恵まれた。公開演技のための練習が始まったのは半年以上も前で、私たちは合同練習のために何度も集まった。すべての場面をジョイントと呼ばれる演技で繋げる構成だったため、その練習も繰り返し行った。大人数での練習は時間もかかって大変だったが、練習を重ねるごとに完成度は高くなっていった。そして本番、自分のすぐ近くにマイクがあるというプレッシャーで、私自身とても緊張しており、いくつかミスもしてしまった。本番はあつという間だった。それでも、約四百人の高校生と一つの大きな作品を作り上げた達成感は忘れられない。高校スポーツの祭典であるインターハイの開幕に、このようにして携われたことを嬉しく思う。コーラス部でまた一つ、貴重な経験をすることができた。

コーラス部での活動を振り返ると、色々なことが思い出される。私たちの代は運が良かったというべきか、先生や先輩方のご活躍のお陰もあり、いくつもの貴重な経験をすることができた。去年、上海の高校生と交流し、実際に上海を訪問したことは言うまでもない。演歌歌手の新沼謙治

が心配されている。

オリンピック出場選手は、自分の夢や希望を叶えるために努力し、選手一人ひとりに、苦労や挫折を乗り越えた歴史がある。また世界の人々は、そのエピソードやパフォーマンスを見て感動し、自分の生きる希望や未来への活力を得ている。

メダルが確実とされている選手が、早々に敗退するケースがよくある。インタビューなどを見ると、「オリンピックには魔物が棲んでいる。」という言葉をよく耳にする。私が考える魔物は、自分自身が作り出したもので、極度の緊張や期待に応えようとする、普段の「平常心でやろう」、「良いパフォーマンスを見せてやろう」という気持ちだが、心の均衡や筋力を調整する自律神経に影響を与え失敗を招く。今は、広く自分の心をコントロールするトレーニングも普及しているが、四年に一度のオリンピックでは何人もの選手が魔物に獲りつかれてしまう。オリンピックの素晴らしさや恐ろしさに、世界の人々は魅力を感じているのではないだろうか。

私が目指す「教育」の現場では、オリンピック選手がパフォーマンスを示すような派手さはないが、生徒や学生たちに希望を持った生き方や学ぶことの楽しさを、色々な体験活動から「感動」を通して学ばせることはできる。人間

さんと歌わせていただいたこともあった。他にも、最後のコンクールをインフルエンザで棄権するという辛い経験もしたし、文化祭で最優秀賞を頂いたこともあった。何か新しいことがしたいという理由で入ったコーラス部だが、結果として、色々な経験をすることができ、本当に良かった。コーラス部で得た経験を、これから先、何らかの形で生かしていけたら良いと思う。そして、支えてくださっている方々への感謝を忘れず、受験勉強も頑張りたいと思う。

ブレない生き方を目指して

岡山一宮高校三年 守 時 優 里

八正会での活動も、早いもので三年目を迎えた。半年後には入学試験を控え、私たちがセンター試験最後の受験生となる。自分の目標を再確認し、得意分野の知識をさらに深め、現役合格を目指したい。

今、日本では参議院選挙、都知事選挙が終わり、自由民主党内の動きも目が離せない。また、世界ではオリンピック・パラリンピックが開催され、リオデジャネイロの治安

教育は、生涯を通じて行われるもので、若い時の経験や感動は、その後の人生を大きく左右する。今年の夏は、オリンピック観戦と受験勉強で「アツい夏」となる。

日本の景気低迷はこれからも続き、アベノミクスによる経済政策も所得格差が広がるばかり。少子高齢化への対策も決め手はなく、待機児童、待機高齢者は増えるばかり。

日本が、これから世界で生き抜いていくには、さらなる「教育」が必要不可欠である。国民全体の知識レベルが向上すれば、どんな時代が訪れても知恵と勇気で乗り越えることができるだろう。自分の幸せや、幸福感の捉え方を学ぶことが、充実した日々を送ることもつながる。

日本の教育は、「詰め込み教育」から「ゆとり教育」に変わり、学力の低下や生きる力を学ぶ機会を減少させてきた。しかし私は、ここで文部科学省が見直しに踏み切った経緯を尊重したい。これからの社会を生き抜くために必要な「生きる力」を身に付けさせるため、確かな学力（基礎的・基本的な知識及び技能）を習得させ、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力・判断力・表現力などを育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視している。二〇〇〇年から始まったOECDによる国際学習到達度調査（PISA）も年々低迷が続いていたが、二〇一五年にはシンガポール、香港、韓国に次ぎ、日本は

第四位と健闘し、学力の向上が窺える。

私が暮らす岡山県は、学力の低下が著しく、毎年全国ワースト一〇当たりを上下している。私が目指す「教育」の現場は日々厳しい状況が続いている。しかし、「教育の再生」がこれからの日本を支え、世界の情勢や自由経済を生き抜く上で最も重要である。これからも、「教育」の最先端を学び、何が大切かを模索しながら日々精進し、人間性を磨いていきたい。近い将来、生徒や学生たちに自分の信念や生き方が語れる教育者でありたい。

ラグビーで学んだこと、夢の花園へ

玉島高校三年 名 田 怜 央

ラグビー漬けの三年間を振り返ってみると、練習、試合、遠征をただ、繰り返ししてきたといってもよいと思う。

ラグビーは十五人で戦い団結力が発揮できたチームが、勝ち進んでいくスポーツだと思う。先生からは団結力がないとだめだと日頃から言われ続けているが、今までは理解している気になっていた。今年、三年生になって初めて気

ここで学んだことをこの秋の花園予選へ活かそうと思う。

すっかり先輩から受け継いだ団結力を後輩へつないでいく、そして先輩の悲願だった花園出場、花園一勝を今年こそは、自分たちの手で勝ち取りたい。その夢を夢に終わらせずに有言実行していきたい。

「ありがとう」を読んで

総社南高校三年 吉 川 朋 之

今回の原稿では、「ありがとう」を読んで気に入った詩二つについて書こうと思います。

まず一つ目は、『あきない』という詩です。この詩は、商売（あきない）とはどういうものかということを書かれている詩で、商売は笑顔が絶えないから〈笑売〉、いつも活発だから〈勝売〉、ところが商売を面白くないと思っていると〈傷売〉、そして〈消売〉となって消えてしまうと洒落を使っ

ていて面白いのですが、詩の最後に、

〈笑売〉をしているのか

づいたことは、今まで先輩に頼り切っていたことだ。団結力とは作り上げていくものであり、自然にできるものではない。これまでは先輩がそれをやってくれていた。そのことに気付いた自分は、練習中の雰囲気作りや、後輩に指導するなど、自分のレベルアップ以外にもチームの団結力をいかに培うかを考えていくようになった。春には、岡山県の国体選抜候補選手に選ばれ、七月の熊本合宿を経て正式に国体選抜選手になった。

熊本合宿では、余震が続いていることもあり合宿へは親の同意がなければ参加できないなど通常とは違っていた。実際に、現地に行って、ニュースなどで見ていた光景がこちらこちらにあった。ブルーシートで覆われた屋根や、迂回路と表示のある道路など復旧がなかなか進んでいないと感じた。合宿では同じ県の他校の選手と岡山県代表としてチームを組んで、九州の各県の選抜チームと戦った。試合は、例年一勝もできずに力の差が歴然としていたのが、今年は一勝できた。刺激があり試合が楽しかった。熊本遠征に参加できたことに感謝している。

選抜チームでの自分のポジションはフランカー。チームでの役割は攻撃的なタックルとボールを得て他の者につないでいくことだ。フランカーの役割はそのままチームを團結させていくために自分に与えられた使命のように思える。

〈傷売〉をしているのか

〈勝売〉をしているのか

〈消売〉をしているのか

あなたはどちらの商売をしているのだろう

と書いてあり、この部分がとても深く印象に残りました。

二つ目は『天下一品』という詩です。僕はごめんなさいなど謝罪の言葉をハッキリと言うことがなかなかできないので、すぐ素直にハッキリと言えるようになりたいです。

巻末の〈脳力開発・表現道シリーズ〉という中の、『表現道・言葉活用表』のページも気になりました。日頃の生活を振り返ってみると、現状維持言葉（忙しい、どうせ、難しい、できない など）をよく使っているなと思います。今後の生活では、それらの言葉をできるだけ使わないようにできたらと思いました。

岡大学習会にて

岡山操山高校三年 藤 原 淳 美

私はこの八月の初め頃に、学校の三年生の希望者だけによる岡山大学での自習学習会に参加しました。岡山大学のある棟の何部屋かを借りて自分の勉強を集中して取り組み、疑問に思う部分は随時先生に質問をするという会でした。この場所での勉強をするメリットは大きく二つ。まず一つ目は勉強をしている中での質問がすぐに解決できるということです。夏休み中で中々質問できない状況下でのこの点は大きな利点だと思います。そして二つ目は岡山大学の実際の教室の中を知ることができるということです。私たちが受験生は少なからずセンター試験でこの岡山大学で受験をすることになります。教室の中までは大学説明会で入ることができませんが、この機会を利用することで、本番の時に受験会場に入ったときの圧倒感や不馴れな空間に対しての緊張感を和らげることができます。私は主にこの二つのメリットを重視してこの機会を利用しましたが、私が思っている以上の収穫がありました。

今回の収穫物の中には良いものだけでなく悪いものもある

大学生になって

川崎医療福祉大学医療福祉学部臨床心理学科一年

蘆 原 薫

現役高校生の皆様、また、八正会役員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。毎日暑い日が続いており、勉強に仕事にとお忙しい日々を送られていらっしゃると思います。

今回、八正会の夏期研修の案内を送って下さったので、ぜひ、OBとして参加したく、やまびこも書かせていただいております。まさか、こんなに早くやまびこを書けるとは思いもよらず、嬉しいです。大学生になって初めてのやまびこなので、まずは近況報告をしたいと思います。

四月に私は所属を書いた大学に入学しました。入試の結果、第一志望校へ行くことは叶いませんでしたが、この大学以外にも合格した所があり、カリキュラムと、大学院の種類別と、近さで(笑)選びました。最初はとても緊張していたけどちスタートでしたが、TwitterやLINEなどといった現代っ子の武器を駆使して入学前にあらかじめSNS上でコミュニケーションを積極的にとっていたので、その話題から話をひろげて友人をつくりました。冷静にこの文

りました。悪いものとは失敗したことなのですが、それは一番最初に起こりました。朝、大学までの交通方法として岡山駅からバスで行きましたがここで大きな誤算が生じました。当日、インターハイの会場に行く組の人たちと予定していたバスが被ってしまいそのバスに乗れませんでした。おかげで受け付け時間に間に合うことができなかったのですが、センター試験本番であり得ることなのでもっとしっかりとかをしなければと知ることができました。逆に良いものというのは、生のキャンパスライフを少しだけ見ることができたということです。勉強会が平日に行われたため、多少の大学生を大学内で見ることができて、あと何ヶ月後かには自分もああるんだと、より一層志望校に合格したいという気持ちが強まりました。また実際の大学の様子をを知ることができたのもよかったです。

私は今回の自習学習会に参加することで大学受験に対する意識がより一層確実になったことが収穫でした。ですが一番に感じたことは「実際に自分自身で物事を経験することの大切さ」です。これからも様々なものを自分の目と耳で感じて経験していきたいです。

を読んだ人は、この文が少し矛盾していると思うでしょう。そう、私はSNS上ではキャラが変わるくらいトークできますが(自分で言う所に残念さを感じます)、実際にはなかなかしゃべることができない人見知りです。これは現代を生きるSNSを依存するくらい使う人によく当てはまるのではないのでしょうか。ぜひ後輩の皆様には、私のようにならないでいただきたいです。

話を戻します。入学して私は女子八人グループの一員になりました。学科にあるグループでは最大数です。個性の集合体で、高校の時には及びませんがキャラが濃く、とても毎日が楽しく充実しています。

高校と大学の生活の違いについて、実感したことを数個挙げたいと思います。まず、出席確認は、出席カードもしくはリアクションペーパーという感想文を書く紙でとりまします。このリアクションペーパーなるものが、先生によってサイズが違うので、とてもやる気へ左右します。また、大学では講義中にスマホをいじっても、イヤホンで音楽を聴いても、寝ていても、授業に来なくても、何も言われません。『自己責任』という言葉で終了です。なので、成績が良くなくても、単位を落としても、自己責任なのです。楽かもしれませんが、残酷な言葉でもあります。しかし、社会に出た時には、自己責任など当たり前なのです。今から

2016 夏期研修会日記 < その1 >

平成 28 年 8 月 10 日～12 日におこなわれた宿泊研修の内容を紹介します。

8 月10日(水)

閑谷学校

入所式

2、3 年生はワクワク

1 年生は、緊張の中、スタートしました。



野外炊事

みんなで協力して、カレー作りをしました。



野外炊事

みんなで作ったカレーは美味しかった?!



木工クラフト

記念のキーホルダーを作成しました。



レク&交歓会

レクリエーションと交歓会で

親睦を深めました。



8 月11日(木)

ラジオ体操

眠い目をこすりながらの体操で身体のスイッチオン!!!



八正会 HP にも掲載しています。 <http://www.hasshoukai.or.jp>

八正会

検索

慣れておけ、というもののなのかもしれませんが、現時点で原稿用紙
まだまだ書きたいことがあります、現時点で原稿用紙
二枚半を超え、四枚目に入ろうとしており、やまびこ特大
号になってしまいそうなので、ここで書くのを終わろう
と思います。八正会に関わる全ての皆様のご健勝とますま
すのご活躍をお祈り申し上げます。

2016 夏期研修会日記 < その2 >

平成28年度 夏期研修会日程表

公益財団法人 八正会

8月10日(水)		8月11日(木)		8月12日(金)	
8:50	岡山駅市営駅南駐車場 集合	6:30	起床	6:30	起床
		7:00	朝のつどい(つどいの広場)	7:00	朝のつどい(つどいの広場)
		7:30	朝食	7:30	朝食
		8:20	清掃	8:20	清掃
			8:40	8:40	部屋点検
9:00	バス出発 閑谷学校へ	9:00	ディベートについて 講師 西口先生	9:00	ボランティア活動
10:30	入所式(視聴覚室)	10:00	グループ討議 (視聴覚室)	10:00	移動 ブラインドツアー アドベンチャー
11:00	入室	11:00		11:30	着替え(脱衣場)
11:30	移動			12:00	昼食
12:00	説明(ロッジ)	12:00	昼食	12:00	昼食
	野外炊事 (第3炊事場) 昼食	13:00	ディベート (視聴覚室)	13:00	感想文 (視聴覚室)
				14:00	退所式(視聴覚室)
				14:30	閑谷学校、出発
16:00	移動	16:00	スタンツ話し合い (視聴覚室)	16:00	岡山着 解散
16:30	木工クラフト (第3・4・5研修室)				
17:30	夕食	17:30	夕食		
18:30	レク&交歓会 (第3・4・5研修室)	18:30	レク&スタンツ発表 (プレイホール)		
20:30	入浴	20:30	入浴		
21:30	スタンツ話し合い	21:30	休憩		
22:00	就寝	22:00	就寝		

8月11日(木)

ディベートテーマ ①「教員の部活指導を廃止すべきである」は 是か否か
②「参議院を廃止すべきである」は 是か否か

いよいよ恒例のディベートです。
難しいテーマにみんなで頭をひねって
討議に備えました。



スタンツ発表
今年も楽しいスタンツばかりで
新しいキャラを発見??



討論開始。
立論⇒反対尋問⇒最終弁論と
お互いの主張ができました。



甲乙つけがたい中、
各賞が表彰されました。



8月12日(金)

ボランティア活動
恒例の「石橋磨き」
汚れが落ちると気持ちまでスッキリしました。



初めて参加したメンバーも
帰る頃にはすっかり仲良しになれました。

ブラインドツアー
目隠しをして山の中を歩くのは怖かったけど
チームで助け合って、ゴールすることが出来ました。



今年は、大勢のOBOGの皆さんに参加
していただきました。
ありがとうございました。
来年もぜひ来て下さいね。待ってます!!

夏期研修を終えて

倉敷高校一年 日 下 侑 希

入会式の時に、一年男子と会話ができていなかったの、ちゃんと会話できるかどうか研修に参加する以前は、不安だったけれど、そのようなことはなく楽しくできて本当に良かったと思います。

また、班活動の野外炊事では、火を勢いよく強くしたために、水を余分に追加したので水くさいカレーになると思ったら、とっても美味しいカレーができてよかったです。

そして、班活動のスタンプでは、みんなで案を出し、計画を立てて一つの劇ができてよかった。コミカル(?)な桃太郎の役的成果でもらったアシハラ賞のお菓子は、家でゆっくり食べさせていただきます。

ただ一点、名ふだをなくしてしまって、みんなの時間を奪ってしまったことは、反省しなければいけません。来年は、しっかりと自己管理をして、このようなことがないようにしたいと思います。

まだまだ言いたいことはあるのですが、クドいと思うので、ここらへんで終わりにしたいと思います。

夏期研修を終えて

岡山一宮高校一年 高 橋 大 地

まず最初に研修に参加する前は行くのがとても嫌だったけど今は来て良かったと思います。たくさん経験ができて勉強になったしとても楽しく活動ができました。一日目の野外炊事は中学一年の時に経験していたので中学の頃はなかなか火がつかずに困った思い出があるけど意外と簡単につけることができてよかったです。炊飯器ではなく自分で炊いたご飯はとてもおいしくカレー四杯も食べれたんでよかったです。一日目のレクリエーションのときには先輩方はとても優しく接してくださり楽しくゲームをすることができました。二日目に入りデイバートがすごく大変でした。初めての経験でとても勉強になりました。質問された時に全く答えれずみんなの足をひっぱってしまい来年はもっと勉強していこうと思いました。でもその後のスタンプはとても楽しかったです。練習の時間がとても少なくて上手いかなかったところもあったけど何とかできてしかも一位になることができたんでとても嬉しかったです。三日目には自分たちの泊まった部屋をきちんと掃除して石橋み

がきをしました。みんなでしっかりみがいたので来た時よりもきれいになった気がします。そして最後のブラインドツアー・アドベンチャーが一番自分の中で楽しかったと思います。目隠ししながらロープを頼りに山を下ることなんか初めてでちょっとすべったりこけそうになったりもしましたがとても楽しい経験になりました。あとアスレチックみてちょっとはしゃぎすぎて結構遊んでしまいました。三日間すごくいい経験になりました。

夏期研修を終えて

津山高専一年 佐 藤 海 斗

あつという間の三日間でした。通して書く紙が足りない、ので、デイバートに焦点を絞って感想を書こうと思います。

一回戦はレフリー側でした。初めて見るデイバートでしたが、参加者の皆さんの本気度に驚かされました。特に山場となる反対尋問はすさまじい迫力で、このあと自分も尋問を喰らうのかと思うとゲンナリしました。

二回戦は否定側としてデイバートに参加しました。テーマは「教員の部活指導は廃止すべきか否か」というものでした。立論を担当しましたが、いざ論壇に立つととても緊張しました。立論の内容については、先輩方のアドバイスをあり、結構しっかりしたものになったと思います。デイバートの結果は勝利でしたが、個人的にこのテーマを掘り下げてみたいと考えています。日常で社会問題に触れる機会はありません、こういった問題について考える好機になったという点でも、デイバートは有意義なものだったと感じます。デイバートで得られた肯定側・否定側双方の意見を踏まえ、部活問題、ひいては社会への考えを深めたいと思います。

デイバートのことしか書いていませんが、感想は以上です。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校一年 井 上 彪 馬

僕はつい先日まで、テニス部の合宿でとても疲れていた

上に、昔から人見知りが激しく、ほぼ初対面のような人がほとんどなので、この三日間を楽しく過ごしていけるかどうか、とても不安でした。しかし、たくさん活動を通していくなかで、その不安はいつの間にか消えていました。たくさん活動の中でも、特に印象に残っているものについて一つ書きたいと思います。

それは、二日目にあったディベートです。僕は一度中学のときに、国語の授業でディベートをしたのですが、準備不足のために、負けてしまったことを覚えています。そして今回も、反対尋問で指名されて、何も答えられずに終わってしまった、とても悔しかったです。しかし、本番での立論やそれまでの準備がとても楽しかったです。

他にも、先輩方とサッカーをやったり、ランプをやったり、楽しかったことがたくさんありましたけど、僕が楽しめたのは、先輩方が気軽に話しかけてくれたおかげなので、僕も来年には戸惑っている一年生に優しく対応できる先輩になれるよう頑張ります。

も珍しい良い体験になりました。

今回の研修は本当に楽しく良い思い出になったので来年も来てみたいと思います。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校一年 栗山裕唯

二泊三日、知らない人だらけの空間で過ごすことに、私はとても不安でした。兄やいとこがいるとはいえ、大半は初対面に近く、人見知りの激しい私としては、正直過酷なものとしてとらえていました。

しかし、野外炊事では先輩方が優しく声をかけてくださって、とても気分が和らぎました。食事を通して人間関係の輪を広げることができたのは、とてもいい経験になりました。

その後もレクなど様々なことがありますが、特に印象に残っているのは二日目のディベートです。私達の班は「参議院を廃止すべきかどうか」という議題で、あまり政治への関心・知識のない私には苦しい部分がありました。

夏期研修を終えて

美作高校一年 津本宥海

僕は今回の研修に参加して良かったです。最初知らない人ばかりで不安でしたが初日の野外炊事で不安はふっとびました。野外炊事は二回目でしたが上手くカレーができおいしく頂くことができました。

グループに分かれて行ったレクは皆と距離を縮めることができ楽しくレクをできました。一日も経ってないのにまるで旧友のような感じでどこか不思議でした。

二日目のディベートはほとんど一日かけて行いました。役割を決めて討議に向けて準備をすることができました。自分で思ってた以上に頭を使って大変でした。でも普段ディベートをしないので良い経験になりました。

二日目一番盛り上がったのがスタンツです。二日間で限られた時間で打ち合わせ等をし本番に臨みました。同じ班の人たちは上手くやってくれたんですけど僕の一発ギャグが不発に終わったので来年リベンジしたいです。

ブラインドツアーは本当に怖かったです。どこに何があるか全く分からなくなりゆっくり進んでいきました。で

ですが、班全員で集めた資料からメリット・デメリットを考えるなどの作業は大変ながらもとても楽しかったです。

反対尋問では、答えをある程度用意はしていましたが、いざ自分で言うとなると上手く言葉が出ないで、ディベートの難しさを感じました。頭の回転の他に、度胸の問題もあるのだな、と新たな課題も見つけられました。

また、この機会を通して、生徒だけでなく多くの大人達と関わることができました。普段なかなか聞けない話をしていたいたり、貴重な体験になりました。

三日間、自然の中で、様々なことを学びました。初めてのことも多く、終始新鮮な気分でいられました。このような機会は今後少ないと思いますので、感じたことをしっかりと覚えていきたいです。

夏期研修を終えて

倉敷青陵高校一年 井上唯

私は一年生で夏期研修に初めて参加しました。最初はどんな研修になるのか分からず、戸惑っていたけど、班のメ

ンバーの方がたくさん声をかけて下さり、すぐに打ち解けることができ、とても良い充実した三日間を過ごすことができました。

野外炊事では班のメンバーと協力して、とてもおいしいカレーを作ることができました。そして、たくさん緑の自然に囲まれながらみんなで作ったカレーを食べるのもあまりないことなので、とても良い経験ができました。

次にディベートでは自分の意見を相手にきちんと理解してもらうことの難しさを実感したと同時に、自分はいま自分の意見を伝えてないことを知り驚きました。だから、今回のディベートを通して、学校でもこのように自分の意見を相手に発信する機会があるので、その機会を無駄にするのではなく、もっと積極的に自分の意見を伝えてみようと思いました。

最後に、このような機会を設けていただきありがとうございます。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校一年 安 井 絵里果

「あー、来てしまった…。」

八月十日の朝、起きてすぐこの言葉が出ました。私はすぐく人見知りで恥ずかしがり屋で、知らない人ばかりのいるこの夏期研修が、本当にいやでいやでたまりませんでした。

閑谷学校までのバスで同じ高校の友達二人と話すことができ、安心感もてましたがバス内はとても静かで、この三日間楽しく過ごすことができるのだろうか、再び不安におそわれました。そうこうしているうちに到着し、野外炊事が始まりました。作るのは暑くて少し大変でしたが、班のみんなで協力して作ったカレーは最高に美味しかったです。一年生の子達とは一緒に風呂に入り、一緒の部屋で過ごしているうちにいつのまにか打ち解けていました。

そして二日目。私がこの研修で最もいやな行事であるディベートです。今までディベートというものを一度もしたことがなかったのでとても不安でした。さらにテーマが参議院の方になってしまい、不安は頂点に達していました。

いざディベートが始まると先輩たちがリードしてくれて緊張もありましたが、落ち着いて行うことができました。とても良い経験ができたなと思いました。三日目は楽しいことばかりでとても良いかたちで研修を終えることができました。

研修が終わった今では、良い経験がたくさんできて感謝の気持ちでいっぱいです。

夏期研修を終えて

作陽高校一年 濱 田 祐佳里

この三日間の間で私は多くの事を学びました。また、友達ができるか不安でしたが、みんなとてもフレンドリーですぐに仲良くなることができました。先輩方も優しくて安心することができました。

私がこの三日間で一番勉強になったことは、二日目のディベートです。先輩の言葉のボキャブラリーの多さや、話のまとめ方・進め方のうまさにとっても驚きました。討論会では、相手に伝えるための話し方で学ぶところがたくさん

ありました。また、反対尋問のときに相手の弱い所を狙う難しさを感じました。自分が当てられた時、少しとまどってしまったのですが、同じ班の先輩がすぐに答えを考えてくれて、自分と先輩たちの対応力のちがいを感じました。次やる時は、自分の力で答えたいと思いました。二番目に勉強になったことは、三日目のブラインドツアーです。くだりの時、先頭を歩いている先輩が、みんなに分かりやすく危ない所を伝え、つねに他の班のメンバーが安全か聞いていて、先頭にいる自分が一番こわいはずなのに、すごく周りが見えていてすごいと思い勉強になりました。

三日間の間で、初めて体験するものが多かったですが、とても楽しく過ごすことができました。この三日間で学んだことを日常にも活かしてがんばりたいです。

夏期研修を終えて

美作高校一年 久保田 実 歩

夏期研修を終えて思い出が沢山できたと思います。その

中で特に思い出になったことは三つあります。

一つ目は野外炊事です。班の人の名前が全然わからなくて仲良くなれるかとても心配だったけど、三年生の戸田さんがとてもしきってくれて、とてもおいしいカレーができました。そしてとても楽しい友達もできました。

二つ目はレクです。一日目のレクは、どんなことをするか全然わからなかったら皆本気で勝ちに行っておどろいたけど、おもしろかったです。私達の班はビリだったけど、班の仲も深まり楽しくできました。二日目のレクも仲の良い友達と楽しくすることができました。歌も大きな声で歌えました。

三つ目は、ブラインドツアーとアドベンチャーです。ブラインドツアーは、目隠しがとてもこわくて最初はビビってましたが、途中からこける人や木にぶつかる人、ずっとさわいでいる人など沢山いて、とても楽しくすることができました。

「ここ木があるから気をつけて。」

「段差すごいから、こけないように。」

「ゆっくりでいいよ。おちついて。」

など、声をかけ合いながらすることができ、目が見えないと大変な思いをすることがわかりました。アドベンチャーは、最初ターザンをやっていきおいがすごくて、大きな声

とがなかったので先輩方が話しているのを見てすごいなと思いました。来年は意見をまとめて話せれるようにしたいです。レクでは班で劇をやり、みんなで楽しくできたのでよかったです。また、ブラインドツアーでは先輩が先頭でみんなに分かりやすく指示をしてくださったのでゴールまで行くことができとても楽しい時間を過ごすことができました。

この三日間やったことのないものをたくさん経験することができ、仲間の大切さや助け合いの重要性などさまざまなことを学ぶことができた充実した三日間でした。

夏期研修を終えて

倉敷中央高校一年 片山 歩

今年二度目の八正会の集まりは夏期研修でした。残念ながらが用事があったため、私は二日目から参加しました。

二日目のデイベートから参加しました。デイベートとは何かとずっと考えていました。実際に西口先生や先輩方からお話を聞くと、難しそうだなと感じました。本格的にデ

を出してしまいはずかしかったです。次につなわたりやもう一回ターザンなどして、はしゃぎすぎてしまいました。

今回の研究で友達ができるかどうかとても不安だったけど、たくさんできてよかったです。良い経験が沢山できました。

夏期研修を終えて

岡山工業高校一年 小林 桜子

夏期研修を終えて、三日間という期間の間に多くのことを学ぶことができたと思います。一日目の活動では特に野外炊事をしたことが印象に残っています。はじめは、班の人とあまり話をすることができませんでした。先輩方が話しかけてくださったのでだんだんとみんなと話すことができました。また、おいしいカレーも食べることができたので良かったです。班のメンバーと一緒にできなかったりできなかったりで仲間の大切さをとても学ぶことができました。二日目はデイベート、レク、三日目の活動ではブラインドツアーが印象に残っています。デイベートはやったこ

イベートの準備をしていくのはとても大変でした。先輩方は後輩たちにきちんと指示をしてくださってとてもありがたかったです。私は班の中で立論をいう人になりました。私は何を言えばいいのか全然分からなくて先輩に聞くと全て教えてくれました。やっぱり三年生はすごいなと改めて実感しました。私の発表は全然だめだったのに終わった後に熊谷先輩が「よかったよ!」「頑張ったね!」と言ってくださりとても嬉しかったです。

二日目の午後にあったスタンツでは、班員と交流が深められたと思います。私の班は「桃太郎」をしました。最後はグダグダだったけれど皆と一緒にすることができて良かったです。結果は二位でした。一位にはなれなかったけれど楽しかったです。

三日目のブラインドツアーは目隠しをして山を下ってきました。少し怖かったけれどとても楽しかったです。

この二日間は私にとってとても有意義な時間になりました。八正会夏期研修に参加することができて良かったです。ありがとうございました。

夏期研修を終えて

就実高校一年 上 原 志 保

私は、夏期研修の参加の郵便物が家に届いた時、すぐに行きたくなかったです。それは四月に会って一言も話せなかった人達と同じ部屋で打ちとけることができないと思っていたからです。さらに、ディベートをするとなると必ず話し合いをしないとだめだから、意見を言えるか不安でした。

けれど、八正会の先輩方が楽しいとおっしゃっていたので楽しみでもありました。

残念ながら、初日は体調不良で休んでしまいましたが、思っていたよりもすごく楽しくて、また先輩方の行動の早さや考え方、気配りなど、本当にすごくて驚きました。来年は引っ張って欲ってくれた三年生の先輩はいなくなるので、自分がどう動いたらいいのかがほんの少しだけですが分かったような気がします。

最初の四月に会った時はお互いに全く話さなかった同じ学年の人とも友達になれたので早くも次の研修が楽しみです。

来年の夏期の研修では、体調を万全にして臨みたいです。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校一年 笠 富 花

八月十日から十二日までの約三日間、初めての夏期研修に参加しました。初めての夏期研修なので人見知りの私は、友だちが出来るか先輩や大人の方々と上手にコミュニケーションがとれるかなど心配事が沢山あり、あまり参加したいとは思っていませんでした。

しかし、夏期研修がはじまると今まで心配していたことがどんどん頭の中から消えていきました。

なぜなら、全ての活動において先輩たちが引っぱってってくれ助けてくれたからです。特に、野外炊事、ディベート、ブラインドツアーでは私に仕事をあたえてくれたり困ったときにはやり方を教えてくれたりしました。また、沢山話しかけてくれたり協力したりと仲よくしてくれました。

さらに、一年生は人数が多く仲よくなれるか不安だった

けど、皆フレンドリーで楽しくすごしました。

最初は不安だらけで参加したくなかった夏期研修ですが、終わってみると本当に楽しいことばかりで良い経験をさせてもらったなと思います。

夏期研修を終えて

倉敷高校一年 四野見 祥 子

この三日間、一番学んだことは本当に頭のいい人のことです。

例えば、カレー作りとかで周りを見て、「あれしたら早く作れるな」とか「あれを手伝ったほうがいいかな」など周りのことまで目が行き届いている人のことです。学校で担任の先生に、「周りのこともしっかり見なさい。」など言われたことがあります。その意味が理解できたような気がします。あと、自分の意見を明白にし、皆に伝えることができる人です。ディベートをしてみて、それがとても大切なことだと実感しました。意外とそれが難しかったです。この二つのことは、テストでいい点数を取るよりも、とて

も大切なことだと思いました。それを、学校生活にも生かせたらいいなと思います。

研修の中で一番たのしかったことは、スタンツとレクです。高校生になって、このようなレクやスタンツをやる機会がないので、とても楽しかったです。レクは、小さい頃やっていた遊びをやったので、とてもなつかしく感じました。スタンツでは自分たちの評価は低かったけど、台本を考えたりすることがとても楽しかったです。

三日間、新しい友達もでき、とても楽しかったので、また来年行きたいです。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校二年 植 本 圭 祐

去年は部活の合宿のため参加できなかったのですが、とても楽しみにして今回出席しました。

いろいろな活動を通して友達を多く作ることができて大変楽しく過ごせました。企画してくださった八正会のみな様には感謝しています。二泊三日でしたが、大変早く過ぎ

さり、充実したものだったと思います。ディベートでは、思っていたものよりも白熱していて、多くのことを深く考えましたし、他の視点からの意見に考えを深められました。スタンツについても、賞も頂きましたし思い出深いものになりました。しかし少々酷すぎな気がします。ブラインドツアーは素直に楽しめました。多少、危険気味(?)でしたが、初めての体験で、とても新鮮でした。企画以外の多くの場面でも、仲間としっかり交流ができました。一緒に遊んだり、勉強の話をしたり、本当に常に楽しかったように思います。正直、こんなにも楽しいとは思っていませんでした。来年も是非して、今度は三年生として、しっかりと盛り上げていきたいと思います。今回の研修ありがとうございました。

夏期研修を終えて

津山高校二年 産 本 龍

私は今回用事があり、止むを得ず二日目からの参加となりましたが、多くのことを学びました。

ってできるのは当たり前、ない時にいかにやるかが重要と返されてしまったので、今後は今の自分の課題と真つすぐ向き合い、目標ににじり寄っていかうと思います。二日間ありがとうございました。

夏期研修を終えて

岡山東商業高校二年 三 宅 竜 矢

今回の夏期研修は学校の部活の合同練習やボランティアに行っていたので最終日しか行けなかったけど楽しかったです。

十日の一日目のときは部活でいろいろな商業高校の生徒に来てもらって合同練習会をしました。内容は秋の競技会にむけての対策と練習をしました。まずテストをし、そのあとグループでわからないことを教え合うのですが自分はずんぜんわからないものが多く、教えてもらえばかりだったので、もっと勉強していきたいなと思った。

十一日の二日目はインターハイのボランティアで、岡山駅の西口で総合案内所をやっていました。開いたときは、

確かにディベートなんかはとても勉強になると思いますが、私が思うに、この研修の真価は他校生との交流にあると思います。例えば私の通っている津山高校は全校で七五〇人で、多いと言えば多いですが、同じ学年の生徒全体に対して見ると、当然のことですが極一部ということになります。すなわち私達は普段、そんなとても小さな箱庭で生活していることになります。そこでこの研修で他の高校の同級生及び先輩・後輩と出会うことで、私達は彼らの世界のかけらを覗き見することができ、自分の知る世界の拡張が可能となるのです。このことが私はこの研修の真の狙いではないのではと考えています。実際に私は、二日間自分の世界を大きく広げることができました。特に八正会には将来他を引っ張って行きそうな人ばかり在籍しているので、何気ない話題からも多くを学べたり、お互いについて深く切り込んでいくことができました。二日目の夜、私達は飽きて寝たくなるまで大富豪で遊ぼうとしていましたが、夜中の0時を回ったころ、気付けば互いの勉強方法やこだわりについて議論していて、さすがに八正会は寮生とは違うなと苦笑させていただきました。

今回の研修では、ただ楽しいだけでなくモチベーションの向上につながった点で、自分にとって発展的な内容にできたように思います。ただそのことを話すと、やる気があ

人がよくきていそがしかったけど、後半になってくると、太陽の光があたり暑く人もこなくなってしまうすごく暇でした。でも差入れをしてくれた人がいてすごく嬉しかったです。

十二日の最終日によりやく、夏期研修に参加できました。最初から橋のまわりのそうじだったので、暑くて大変でした。さらに、落ちにくい汚れがありすごく大変でした。ね起きでもあったので、すごくねむくて帰ったらすぐにねたいです。

今回の夏期研修には、最終日という一日しかこれなかったの、来年は、三日すべていきたいなと思いました。

インターハイの受付は本当に暇で暑すぎたのもう二度としたくありません。

八月二十日にITパスポートを受けるのでそれにむけて、もっと、勉強して、合格点の六百点をとれるようにもっともっと、勉強していきたいです。

夏期研修を終えて

倉敷古城池高校二年 小 西 菖

八正会に入会して二回目の夏期研修が終わりました。今年の研修会は昨年と違ったことをたくさんしました。まず一つ目は野外炊事です。班の皆と協力してお米をとぐところから始め、具材を切ったり火をおこしたりしおいしいカレーを作ることができました。自分たちが汗を流して作ったカレーはとても最高でした。二つ目はキーホルダー作りです。木を使い絵を書いてそれに口ウを塗ってできるという簡単なものだったけど、絵を書くのに悩んだりとなかなか時間がかかりました。ですがいい物が作れたので良かったですと思っています。三つ目はブラインドツアーです。初めて聞いた名前で行った事もなかったので、どんなことをするんだろうと不安でしたが、やってみると意外に楽しかったです。ブラインドツアーでも班の人と協力してどこに木があるとか段差があるから気をつけてとかロープをくぐってとかを言い合いながら山を下っていき誰もけがをすることなく終われたのでよかったです。今年初めてすることが三つもあり、しかも二年生の女子は一人だったので緊張な

二日目は本当に過酷なスケジュールでしたが、一番充実した日でもありました。ディベートは参議院に関することを議題として班で色々試行錯誤を繰り返して立論を作りました。人によって考え方や物の捉え方が違って面白かったです。ディベートが終わってすぐにスタンツの準備にとりかかりました。スタンツは意外な人が主役として出て、見たことのない一面を見れたのが良かったです。

三日目のブラインドツアーは想像以上でした。まずスタート地点に登るだけで息が切れるくらいの高さまで上がって七人班で目隠しをして降りました。急な段差や方向が変わる所を班全員に伝えるのは大変でした。

この研修で学んだ最大のことは交流の楽しさとやる時は本気でやるということです。異なった学校の人と二泊三日で泊まれることなど滅多にないことなのでいい経験になったし多くの人と仲良くなれて色々な話ができて良かったです。また自分がやるべきことをどんな場面でも本気ですると相手にもしっかり伝わるし自分も楽しいので、常に本気で一生懸命やりたいと思います。

どしていましたが、班の三年生の人たちはとても優しくかつたし周りの三年生も同じように優しくて関わりやすかつたのでよかつたと思います。今年も新しい班の人たちと三日間過ごして改めて協力することの大切さを学ぶことができました。来年は最後の夏期研修となるので三日間休まず行けるようにしたいです。

夏期研修を終えて

岡山城東高校三年 小林 陽一郎

まずは大きなケガや病気をすることなくこの夏期研修を終えることができてよかつたです。私は、一年生・二年生共に一日目のみの参加だったのでここで八正会の皆さんと宿泊するのは初体験でした。正直来る前は、知り合いも少ないしディベートやスタンツも難しそうで面倒臭いなど思っていました。いざ来てみるととても面白かつたです。初日はカレー作り・木工クラフト。カレーは暑い中で作つたので少し疲れましたが、火起こしは楽しかつたです。(肝心のカレーはタマネギが多かつたような…)

夏期研修を終えて

就実高校三年 栗山 恵 輔

今年で三年目となる八正会夏期研修でしたが、やはりとても充実したものでした。ただ一つ一日目に参加できなかったのは大変残念でした。「長いものゲーム」ができなかつたのが特に心残りとなっています。それでも全体ではとても楽しく勉強になりました。

二日目のディベートですが、みんなできちんと役割分担をしつつ話し合いながら準備ができたと思います。発表の時自分は最終弁論でしたが緊張で上手く話せませんでした。社会に出た時のために人前で緊張せずはつきりと発言できるようにになりたいです。スタンツは、あまり触れたくないのですが終わってみるとけっこう楽しかつたです。みんなと話し合い練習したりなどで二日目はみんなとの距離をかなりつめることができたと思います。

三日目で一番印象に残つたのは、ブラインドツアー・アドベンチャーでした。目の見えない状況下での下山はとてもドキドキしました。周りとの連携など大事なことを学べたと思います。

三年間の夏期研修を通して一番充実したものだったと思います。来年卒業した後もまた参加したいです。八正会の皆様、閑谷学校の皆様、本当にありがとうございました。

夏期研修を終えて

玉島高校三年 名 田 伶 央

今回も最終日からの参加で、掃除とブラインドツアーしか体験に参加することができませんでした。掃除への参加もだいぶ終わっていたので、少し磨いたら終わってしまいなんだか申し訳なく思っています。ブラインドツアーは一年生の時に体験していましたが、閑谷学校内での体験で、屋外での体験は初めてで楽しみにしていました。

まず山に登って思ったことが「高いー急ーデコボコだな」ということです。

こんなところではさすがにしないだろうと思っていたら目隠しして始まっていました。

最初の回りから地面はデコボコで、何も見えない状況で正直ビビっていました。

はとても簡単に作れて、実用的な物だったので良かったです。

十一日は、ディベートとスタンツ。ディベートでは、初めて立論の担当をしました。が、立論の点で差がついてしまったので残念でした。ディベートに限らず、話をするときは、事前によくまとめて、相手に伝えるようにしなければならんだと改めて分かったので良かったです。スタンツでは、限られた時間の中でセリフを覚えたり、準備をしなければならので、本番では、セリフが飛んでしまったり、出る場面を間違えてしまいました。一位をとることができて、そして個人賞もとることができてとてもよかったです。今度、文化祭で劇をするときの参考にもなります。

十二日は、ブラインドツアーアドベンチャー。班の人達と協力してゴールまで行けたのでよかったと思いました。

入所式の時に「ありがとうと言われる人間になりました。う」というようなことを言われましたが、今回の研修では、自分がありがとうと言う人間になってしまいうことが多かった。なので、自分の管理ができるようになります。

今回の研修会で学んだこともまた、今後の日常生活や学校生活で生かしていきたいと思っています。そして、ありがとうと言われる人間になりたいです。

でも、班のみんなで声を出して、「ここは左にくぐって。」

「急な段差だから気を付けて。」

などの声を出すと、自然と安心感ができました。何個かのポイントではこけそうになりましたが、無事下りることができて良かったです。

このような体験は日頃できないので貴重な体験だったと思います。三年間通して部活や発表会などで一日目から最終日まで居れたことはないのですが、一日の短い時間でも、これでよかったと思います。

今後ともよろしく願います。

夏期研修を終えて

総社南高校三年 吉 川 朋 之

あつと言う間の二泊三日だったなと思いました。

十日は、野外炊事と木工クラフト。野外炊事では、火傷をしてしまい、先生方や班の人達に申し訳無かったです。

今後は火傷したりしないよう気をつけたい。木工クラフト

夏期研修を終えて

津山高校三年 戸 田 花

三度目の夏期研修が終わりました。参加する度に、来てよかったなあと思います。今年もとても良い経験をする事ができました。

野外炊事は、とにかく暑かったです。私はやらなかったけど、火をつけたりするのはとても大変そうでした。カレーもご飯も、意外とおいしくできていてうれしかったです。何も考えず、たくさん作ってしまったのは失敗だったと思います。

ディベートは、議題が難かしすぎて大変でした。私の班は『参議院を廃止すべきである』という議題の反対側でした。何を考えるにしても、まず参議院とは何かを知らない。と始まらなかった。このディベートを通じて凄く参議院について詳しくなりました。でも正直、このような国のトップの人達が考えるような議題をただの高校生に討論させるのはきびしいと思います。

スタンツは、前日にとりあえず私が台本を書いて、直前に練習しながら台詞を変えていくという荒技でしたが、な

んとか形になって良かったです。一年、二年とそれなりの役を演じてきましたが、今年は役を皆が進んでやってくれて、私はナレーションとなりました。恥ずかしがらずやってくれた一年生たちに拍手！一位とれてうれしかったです。また、OBの方達も来てくださって、色々な話が聞けて良かったです。来年、機会があったらOBとして参加させてもらおうと思います。おつかれさまでした。

夏期研修を終えて

岡山操山高校三年 熊谷舞佳

今回は、一年ぶりの参加だということもあり、結構楽しみにしていました。素直な感想としては、なんだかんだでとても楽しかったです。班活動などで難しいこともありましたが、同じ班の三年と協力して、いくらかは後輩を引っぱれたのではないかと思います。班長には、頼りっぱなしの所もありました。すいません。とはいえ、三日間みんなお互いに協力し合えたようにも思います。今まで二回参加していますが、前回と同様にあつという間で、とても楽し

かったです。

一番印象的なのは、やはりスタントです。前日にたくさん考え、当日に色々変更し、本番はアドリブあり等かなりドタバタでしたが、班員の恥を捨てた思いきりのおかげもあり、個性溢れる「桃太郎」ができたように思います。最後の年に、あんなにおもしろい演技を見ることができて良かったです。他の班の出し物も、とてもおもしろかったです。個人的には、もう少し恥を捨てられたらよかったなと少々心残りです。後輩のみなさんには、たくさんおもしろいスタントをしてほしいなと思います。

野外炊事も思い出深いです。私は五班だったので、スタント等のメンバーとは別のメンバーで炊事をしたのですが、自分の班以外の人と交流できたのでとても良かったです。

最後の夏期研修は本当に楽しかったです。ボランティアも良い思い出です。ボランティアも下りはとてもいい経験でした。登山は今後一切したくありません。

また、機会を見つけて、八正会の夏期研修に参加できたらいいなと思います。

夏期研修を終えて

倉敷青陵高校三年 井上真実

現役最後の夏期研修が終わろうとしている。振り返ってみると、内容は濃く、長いようで短いような、あつという間の三日間だったと思う。私にとっては二年ぶりの夏期研修。楽しみではあったけど、今年の夏期研修では後輩を引っぱらなければならない立場でもあるため、どんなことが待ち受けているのだろうかという不安もあった。

一日目。晴天の中、バスは予定よりも早く出発し、人数も思っていたより少なくて、バスの中は静かだったため、二年前とは全然違うなーという印象を受けた。班が発表され、私は二班の班長を務めることになっていた。班長をするのは嫌いではないけれど、少し責任が重いなと思った。早速野外炊事が始まった。役割はすぐ決まり、煙などと苦戦しながらカレーを作った。ルーが一番おいしいと言っていただき嬉しかった。木工クラフト、夕食の後、レクと交流会があった。二班は（私のせいもあり）あまり上位になれなかったが楽しかった。スタントの話し合いはなかなか進まなくて、どうなるのやらという感じがした。台本を考

えたこともない私が、なんとかあらすじを考えられたことがちょっとした達成感であった。

二日目。本当に濃い一日だった。ディベートは、教員の部活動指導を廃止するかどうかで、二班は肯定側だった。考えれば考えるほど否定側の方が有利な気もしたが、みんなで協力して準備が出来た。結果的には負けてしまったが色々勉強にはなった。そしてスタント。アドリブでセリフを考えてもらおうとしたが、なかなか進まなかった。日下くんが桃太郎役になってくれ、個性を発揮してくれた。彼の今後の成長が楽しみである。本番の時は一発ギャグも上手く(?)決めてくれ、二位を頂くことができた。（二班のみんなのお陰です。ありがとう!）

三日目。ボランティア活動で石橋を磨いた。私は外側の方をやり、少しはきれいになったので良かったと思う。ブラインドツアーは班で楽しく活動できた。個人的に、自然の中を歩くのはやっぱり好きだと思った。

この夏期研修で学んだことは、リーダーシップについてだろうか。今回班長を務めさせて頂いたことも良い経験になったと思う。また、他校の友人が勉強をしている姿を見たり受験などについての話を聞いたりして自分ももっと頑張ろうと思った。

夏期研修を終えて

岡山一宮高校三年 守 時 優 里

二泊三日の閑谷学校での研修は、とても楽しかった。幼稚園かもしれないけれど今回の感想は、本当に「楽しかった」がびつたりだ！

一番楽しかったのは、ブラインドツアー。最終日に突然山登りが始まり、怪しい雲行きの中、「はあはあ」言いながら登った。着いたと思ったら、なんと下山がメインで驚いた。「木のねっこらしきもの」に足をとられたり、十人グループで番号を叫んだりして楽しかった。幸いにも私の班のメンバーには怪我がなく、後輩たちにも「先輩おもしろいですね。」と言われて、みんなが楽しめたというのが班長だった私にとっても嬉しかった。

ときには楽しすぎて苦労させたこともあった。ディベートのポスターづくりだ。野外炊事のときは、すっごく「おとなしい後輩」に見えたのに、ちょっといじってみたら「全くおとなしくない」と気付いた時、面白かった。その後も楽しく作業をしていると時間が迫っていて……猛スピードで仕上げることになってしまった。

を引っぱっていく立場だったせいか、三日間ともすごくやりがいと充実感で満たされて楽しかったです。

中でも特に楽しかったのがスタンツとブラインドツアーです。スタンツでは残念ながら四位でしたが、何故か使い道のよくわからない赤いキューピーももらえましたし、何より一年生や二年生の子がものすごい強烈な役をこなしているすごいなと思いました。もっとスタンツを見てみたいというぐらい、印象に強く残っていてもう一度見られないのが残念です。また過去二回の研修では部活の都合で三日目までいることができませんでしたが今回は参加できるのでわくわくしながらブラインドツアーに挑みました。ですがまだスタート地点にたどり着くまでに既に足がぱんぱんで自分の日頃の運動不足を恨みました。あの凹凸が激しい山道を本当に目隠しをした状態でロープ一本で下りれるのか不安でしたがいざやってみると同じ班の人の連携がうまくとれて無事にゴールできて嬉しかったです。これも前の二日間で築き上げた結果なのかなと思うと思わず感心してしまいました。さらに山の中だけあって草木や昆虫類を多く見ることができて、自分達が普段味わうことのない世界を体験・体感できて清々しい気持ちになりました。

今回の夏期研修で初めての体験が何個かある中で班のメンバーや友達と協力して無事に終えることができたのは本

そんな四班だけど、チームワークは抜群だったと思う。

確かに食堂の片付けは、参加率が低かった。しかし、スタンツのときにはどの班よりも早く内容が決まって、「ひろちょこお兄さん」（植本君）を匹頭に、ギャグの練習をした。いつもは、ギャグなんてやらないけど、悪ノリが悪ノリを呼んでいくところが最高だった。加えて、ディベートの作戦会議は素晴らしかった。一年生の発言率は、一番高かったのではなからうか。（特に証拠はない。）次から次へと意見が出てきて、内心びっくりだった。素直に言いたいことをつぶやいてくれる所は、ツッコミどころ満載で、学年も関係なく友好が深まったと感じている。

なんとか班長っぽく(?)なって終えることができたのは、回りの人のおかげだと思う。最後の夏期研修で、よい「おもひで」をつくることができてとても嬉しく思っている。

夏期研修を終えて

岡山操山高校三年 藤 原 淳 美

今回の夏期研修では、私が三年生ということもあって皆

当によかったし今までの中で最高の三日間だと思います。

秋期研修も楽しみです。

八正会夏期研修について

O B 岸 広 将

今回の夏期研修で最も言いたいことは、キャベツの線切りの異常なおいしさでした。それはまるでマグロの刺し身の下に使われているダイコンのようなおいしさでした。

次に二日目は朝五時半に閑谷学校を出て家に帰りました。犬と猫にエサを与えるためです。片道四kmで八km歩きました。がほとんど疲れませんでした。これも毎日犬の散歩を一時間してきたことが実ったのかもしれない。閑谷学校から吉永駅まで行くなかで少し長いトンネルがありその中は真っ暗であり大変な恐怖を感じました。その後、山に霧がかかっていて何とも美しい景色でした。そして家に帰ると、犬と猫がとびついてきて大変ほのほしました。そして三時半に閑谷に戻ってきました。部屋に入ると大西さん

たちになぜか笑われました。ただ入っただけなのにです。来年も参加する予定です。神の数式を発見できるよう次の一年も全力でがんばります。

近況報告

岡山県立大学栄養学科三年 後藤 眞依

今年もOBとして夏期研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。皆さんの一まわり成長した姿をスタンツやディベートなどさまざまな場面で見ることで、とてもたのしいなあとしみじみ実感しました。

さて、私も大学に入学して三年目に突入し、専門的な分野の勉強はもちろん、臨地実習の準備も始まり忙しい日々を過ごしています。また将来どのような場で働きたいかといったビジョンも考えていかねばならない時期になってきました。授業に関しては、自己紹介でも少しお話ししましたが、大量調理の実習が特に印象的で、自分たちが考えた献立が形となり、他の人を食を通して笑顔にすること、これに改めて幸せを感じました。そして調理時においては、他

夏期研修を終えて

川崎医療福祉大学一年 蘆原 薫

私は今回、OBとして初めて夏期研修に参加しました。日程が定期試験と重なっていて、再試や追試の科目が一つでもあると参加できていなかったのも、ひやひやしていましたが、何とかそれらにひっかからずに来て嬉しかったです。

今回の研修は、私が高校一年生のときにやった内容と似ていましたが、後輩はみんなスムーズにこなし、ほぼ五分前集合をしていますが、すごいと思いました。ディベートにおいてもどちらも難しい題でしたが、最終弁論をとてもうまくまとめていたり、スタンツにおいても、セリフが飛ぶことも少なく、新たなキャラを何名も出してきていて、とても楽しませていただきました。

現役のときとOBの違いは、現役のときは目の前に一生懸命で余裕がありませんでしたが、OBになると、自分の役割を特に持っているわけではないので、自分から何か手伝ったりするなど、余裕をもった行動をとれることだと実感しました。いいように言うと、広い視点を持つこ

者とのコミュニケーションや配慮が不可欠であることも身をもって学べたのでは、と思います。私の話はここまでですが、残りは三年生の皆さんにむけたメッセージにしておきます。夏期研修で三年生の皆さんを見てみると、自分も進路についてたくさん悩んだなあということを思い出しました。理想と現実の差に苦しむこともあったり、自分の意志の弱さにもどかしくなることもありました。おそらく三年生の皆さんはこれからの受験シーズンにおいて壁にぶつかったり、くじけそうになることもあるかと思いますが、しかし、最後まで自分を信じていることができるのは自分しかないということをお忘れず、全力で取り組んでください。といつも、元気でなければ力も出し切れないので風邪やケガには注意して体を大切にしてくださいね。

最後になりましたが、毎年貴重な研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。三年生の皆さんも卒業後はOBとしてまた八正会に来てくださるとうれいす！

とができて、あまりいいようには言えないけど、暇な時間が多いな、と思いました。あまりアドバイスなどをしなかったのも、次の研修のときには、何かできたらいいな、と思っています。

今回の研修も、研修の案内の封筒が来たときからとても楽しみにしていて、やまびこの原稿も書いていたのですが、家に忘れてしまいました。基本的にガチ勢で、汚れてもいいような格好だったり、お菓子を何個も持っていたりするなど、全力なのですが、ここぞというときに抜けてしまっているのも、次回ではなおしておくようにしたいと思います。

後輩のみなさん、そして先生方、三日間の研修はとても楽しくて、充実していました。今回参加できてとてもよかったです。次回も来させていたいただきたいと思います。

編集後記『東京一極集中について』

東京一極集中について、時々論議されることがある。地方創生とか一億総活躍とか言葉踊れど実感は伴わないのは私だけだろうか？新東京都知事に小池さんが当選された。女性初、めでたいことだ。投票日、なぜかNHKは大河ドラマ『真田丸』を繰り上げて放送し、午後8時から投票結果について全国放送した。早々と小池さんの当選確実が報道される。確かに東京は、日本の首都だ。東京都の予算13兆3000億円はスウェーデンの国家予算に匹敵するらしい。

だが、それがどう全国に波及するのか？岡山県知事は10月23日投票の予定だ。全国版の小さなニュースにはなるだろうが、大河ドラマを繰り上げたりするだろうか？

民放でも感じたことがある。以前筑紫哲也さんの報道番組で、3月10日、東京大空襲を取り上げていた。もちろん全国放送である。確かに首都東京の空襲を起点に問題提起されたのであるが、名古屋は3月12日、大阪は3月13日、岡山・佐世保は6月29日に大空襲を受けているのである。3月10日だけではない。岡山人としては、胸に6月29日を刻み込みたいと考えている。無論、8月6日・9日・15日を忘れるはずはない。

今、まさにリオデジャネイロオリンピックで熱戦が繰り広げられテレビにくぎ付けの方も多かろう。4年後にオリンピックの舞台は日本の東京に来ることになる。東京に決定されるまでの招致活動や決定後の新国立競技場問題・エンブレムの問題等々、話題には事欠かない状態だ。「おもてなし」の気もちだとか日本の良さのグローバル化だとか、スポーツの発展だとかいろいろ課題はあるけれど、政治も経済もスポーツも東京だけか？という視点は常に持ち続けたい。

【でも、何とかして東京オリンピックチケットは手に入りたいと願うYUA】

発行責任者

落 司 量 則
公益財団法人 八 正 会（トンボ育英事業団体）

郵便番号七〇〇〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

（株）トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二―

協同精版印刷株式会社

平成二十八年九月

印刷所

